取扱説明書

音楽を楽しむためのマナー

電車内や多くの人がいる場所で音楽をお楽しみになる際は、周囲の人の迷惑とならない音量でお聴きください。また、夜間は小さな音も遠くまで聴こえることがありますので音量には充分配慮した上でお楽しみください。

著作権について

本製品をご利用される前に、以下の注意事項をご確認ください。
また、本製品は以下の注意事項を守ってご利用下さい。

●個人で楽しむ以外は、音楽等を著作権者の許諾なしに複製することは、著作権法により禁止されていますので、行わないでください。
●個人で楽しむ目的であっても、作成した音楽等を、権利者の許諾無しに第三者に配布することは出来ません。
●個人で楽しむ目的で録音したデータを、権利者の許諾無しに故意にインターネット上で配布することは、著作権の「公衆送信権」「送信可能化権」に抵触する可能性があり、その場合処罰の対象となりますので、行わないでください。

はじめに / 製品の特長

この度は「X-mate（クロスメイト）」をお買い求めいただき誠にありがとうございます。本製品は手軽に音楽を楽しめるデジタルオーディオプレーヤーです。

WMA（DRM 対応）、MP3 再生（P.31）

WMA 形式や MP3 形式のオーディオファイルを再生可能。WMA 形式は Windows Media DRM に対応しているため、インターネットからダウンロードした音楽も手軽に楽しめます。

便利な USB イヤホンケーブル付属（P.19）

音楽再生時にはイヤホンジャック。パソコン接続時には、先端部分を回転させると USB コネクターとして使えます。USB ケーブルを持ち歩かずに、外出先でも手軽に USB 機能を利用できます。

とっさのボイスメモに便利なボイスレコーダー機能搭載（P.56）

本体にマイクを内蔵。簡単操作でボイス録音ができます。ミーティングや語学レッスンなどの録音はもちろん、とっさの時にボイスメモが残せて便利です。

パソコンを使わずに手軽にオーディオ録音（オートシンク機能搭載）（P.60）

付属のダイレクトレコーディングケーブルを使えば、パソコンを使わずに、CD や MD などのオーディオ機器から直接 WAV/MP3 形式で録音が可能。また曲の切れ目を感知して、自動的に録音を開始 / 停止してファイルを分割してくれるオートシンク機能も搭載しました（P.115）。

好みの音質で音楽を楽しめるプリセットイコライザ内蔵（P.104）

ノーマル / ロック / ジャズ / クラシック / ポップスなど多彩な音楽ジャンルに最適化された 5 種類のプリセットイコライザを搭載。ボタンひとつで好みのサウンドで音楽を楽しめます。

繰り返し再生ができる各種リピート再生機能搭載（P.106）

繰り返し再生できる各種リピート再生機能や、英会話のレッスンなどのオーディオファイルの同一箇所を繰り返し聴きたいときに役立つ A-B リピート機能（P.35）など、用途に応じて多彩な再生方法をご利用いただけます。

海外でも使える FM チューナー 搭載（P.65）

FM ラジオや 1 ～ 3CH の TV 音声を自在に楽しめます。日本国内だけでなく、欧州 / 米国の周波数にも対応しており、周波数が 76MHz ～ 108MHz の範囲内であれば海外でも利用できます。

パソコンとの接続を簡単に実現。USB マスストレージクラス対応（P.81）

USBマスストレージクラスに対応しているので、パソコンとの接続は簡単です。特別なドライバソフトのインストールも不要です。

※ただし Windows98SE 及び一部の Me は付属のドライバソフトのインストールが必要です。

便利なフォルダー機能搭載（P.37）

アルバム別やアーティスト、ジャンル等、収録曲をフォルダー別に整理することができます。もちろん音楽データ以外のデータ管理も可能です。

聴きたい曲だけを再生できるプレイリスト機能搭載（P.50）

お気に入りの曲を簡単操作でリスト化。あなただけのオリジナル選曲集を作ることができます。

購入後も機能を向上できるファームウェアアップデート機能搭載（P.131）

ファームウェアアップデート機能で、最新の操作性を手軽に入手できます。買った後も、使いやすさが進化する「クロスメイト」です。

※別途ファームウェアをインターネット経由でダウンロードする必要があります。

わかりやすい日本語表示機能（P.130）

ID3 タグ対応（P.98）。メニューも日本語表示なので操作が簡単です。

必ずお読みください

著作権についてのご注意

本製品をご利用される前に、以下の注意事項をご確認ください。
また、本製品は以下の注意事項を守ってご利用下さい。

注意

- 個人で楽しむ以外は、音楽等を著作権者の許諾なしに複製することは、著作権法により禁止されていますので、行わないでください。
- 個人で楽しむ目的であっても、作成した音楽等を、権利者の許諾無しに第三者に配布することは出来ません。
- 個人で楽しむ目的で録音したデータを、権利者の許諾無しに故意にインターネット上で配布することは、著作権の「公衆送信権」「送信可能化権」に抵触する可能性があり、その場合処罰の対象となりますので、行わないでください。

商標について

X-mate（クロスメイト）の名称は、シーグランド株式会社の商標です。
Microsoft、Windows、Windows Media Player は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他記載の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

パソコンでの操作について

本取扱説明書では、パソコンの操作方法についても一部紹介をしておりますが、パソコン本体、OS、その他アプリケーションの操作については、ご利用されている製品の取扱説明書をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。

- お客様または第三者が、本製品またはパソコンや各アプリケーションの誤使用、使用中に生じた故障、メモリーの消失、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 本取扱説明書の一部または全部をシーグランド株式会社の許可なく複製することはできません。
- 本取扱説明書に記載されている内容を、製品の機能の改善・改良を目的とし、将来予告なしに変更する可能性があります。
- 本取扱説明書は万全の注意を払って制作していますが、取扱説明書を参考にした操作において損害が生じても責任は負いません。
- 本取扱説明書は開発中の製品を元に制作されており、実際の製品とは一部外観が異なるものがあります。
- 画面ショットは、Windows XPおよびWindows Media Playerバージョン10を使用しています。お使いのパソコン環境によっては細部が異なることがあります。あらかじめご了承ください。

安全上のご注意

製品を安全にお使いいただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。お読みになった後は、必要なときにご覧になれるように、本取扱説明書を大切に保管してください。

警告表示の意味

本取扱説明書では、製品を安全にお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は、次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される内容を示しています。

絵表示の例

この記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容が記載されていることを示します。

この記号は、行為を禁止する内容が記載されていることを示します。

この記号は、行為を強制したり指示する内容が記載されていることを示します。

⚠警告　下記の注意事項を守らないと大けがの原因となります。

運転中は使用しない

運転をしながらイヤホンを使用したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
また歩きながら使用する際も、事故を防ぐために、周囲の交通や路面状況に充分ご注意ください。

煙が出たり、変なにおいがするときは、ただちに使用を注意する

万一、異常が発生した場合はすぐに使用を中止し、お買い上げ店または弊社サポートセンターにご相談ください。そのまま使用すると感電したり火災の原因となります。

正しく接続する

本製品をパソコンに取り付ける場合は、必ず本取扱説明書で接続方法を確認し、正しく接続してください。誤った接続をすると、パソコンや本製品から発煙したり火災の原因となります。

分解・改造しない

感電、火災、火傷などの事故の原因となります。修理はお買い上げ店または弊社サポートセンターにご依頼ください。改造した場合、保証期間であっても有料修理となります。

濡らさない

本製品を調理台や加湿器のそば、風呂場などの水などの濡れやすい場所または水のかかりやすい場所に置いたりご使用にならないでください。火災や発熱、感電、破損、故障の原因となります。
万一、水に濡れた場合は、すぐに電源をオフにし、お買い上げ店または弊社サポートセンターにご相談ください。

振り回さない

ストラップやイヤホンコード、オーディオ録音ケーブルなどを持って本製品を振り回さないでください。周囲の人がけがをする恐れがあります。

端子部に金属類を差し込まない

ジャックなどに金属類を差し込まないでください。回路のショートや故障の原因となります。

下記の注意事項を守らないと大けがの原因となります。

USB コードを傷つけない

USB コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。USB コードを加工したり、重い物を乗せたり、引っ張ったりしないでください。また、熱器具に近づけたり、過熱しないでください。

指定以外の電池を使用しない

必ず単 4 型アルカリ乾電池をお使いください。異なる電池で使用すると、火災や感電の原因となります。

パソコンと接続中に雷が鳴り出したら、使用を中止しパソコンから取り外す

落雷により、火災や感電、故障の原因となります。

乾電池をショートさせない

乾電池の＋端子と－端子を金属類で接続させないでください。乾電池の破裂や液漏れ、過熱などにより、火災や感電、けが、周囲の汚損の原因となります。また、乾電池を持ち運ぶ際は、絶縁体で保護して持ち運びしてください。

ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。

⚠注意　下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

大音量で長時間連続で聴きすぎない

大きな音量で長時間続けて聴くと耳を刺激しすぎてしまい、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にイヤホンで聴く場合には注意し、周囲の音が聴こえるくらいの音量でお聴きください。

はじめからボリュームを上げすぎない

再生時にボリュームが上がりすぎていると、突然大きな音が鳴って耳をいためることがあります。ボリュームは再生しながら徐々に上げていきましょう。

コード類は正しく配置する

本体と他の機器をケーブルを使って接続をする際に、コードを正しく配置しないと足などにひっかけて機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して、接続・配置してください。

ぐらついた台や傾いた場所に置かない

落下し、故障の原因となります。

幼児の手の届くところにおかない

けがなどの事故の原因となることがあります。

ぬれた手で本製品を触らない

感電の原因となる場合があります。

長期間使わないときは乾電池を取り外す

長期間使用しないときは安全のため乾電池を取り外してください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏、発熱、発火、破裂、誤飲などを避けるため、下記のことを必ずお守りください。

本製品には必ず単４型アルカリ乾電池をお使いください。

⚠危険

- 単４型アルカリ乾電池以外を使用しない。
- ショートさせたり、分解、加熱しない。コインやヘアピン、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 火のそば、ストーブのそば、炎天下などの高温の場所で充電、使用、放置しない。
- 分解・改造しない。
- 強い衝撃を与えない。

もし電池の液が漏れたときは、漏れた液を拭き取り、ご利用を中止してください。万一、液が体についたときは傷害を起こす恐れがあります。すぐにきれいな水でよく洗い流してください。漏液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療をうけてください。

- 火の中に投入したり、ハンダ付けしない。
- 指定された種類の電池を使用する。

⚠注意

- 液漏れや異臭がしたら、使用をやめ、ただちに火気より遠ざける。

本製品は、故障・修理などによってデータが消えることがあります。万一データが消えても、弊社としては内容についてまでの責任は負いかねます。重要なファイルについては、定期的にバックアップをお取りください。

ご利用にあたってのお願い

- 本製品をパソコンに接続してファイルを読み書きしている最中は、パソコンから本製品を取り外さないでください。故障、データ破壊の原因となります。
- 本製品をパソコン本体に接続したままパソコンを起動した場合、本製品を認識しない場合があります。その場合は、いったん取り外してから接続し直してください。
- USB ハブに本製品を接続する場合、ご利用の環境によっては正常に動作しない場合があります。その場合は、パソコン本体の USB ポートに直接接続してください。
- 本製品はサスペンド / スタンバイ / スリープなどのモードに対応しておりません。
- USB ポートに接続しても、まれに認識しない場合があります。その場合は、いったん取り外してから接続し直してください。
- 録り直しのきかない録音の場合、必ず事前に試し録音をしてください。
- 操作上の問題または本製品の不具合により、正常に録音されなかった場合の録音内容については保証致しかねます。あらかじめご了承ください。
- 本体は防水仕様になっていません。水に濡らしたり、湿度の高い所に置かないでください。
- 本製品をズボンやスカートの後ろのポケットに入れたまま、座席や椅子などに座らないでください。
- 鞄などに入れる場合は、重たい物の下にならないようにご注意ください。

付属品について

本製品には、以下のような付属品が同梱されています。お使いになる前に、まず付属品がすべて揃っていることをご確認ください。万一、付属品の不足や破損がございましたら、弊社サポートセンター（P.151）にご連絡ください。

上記のほかに保証書およびユーザー登録はがき（P.152）が付属されています。また、カタログや注意書きの別紙が同梱されている場合があります。なお、イラストはイメージです。実際のものと異なります。

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

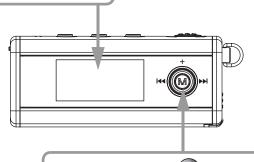
目次

お使いになる前に（準備）

各部の名称やディスプレイに表示されるマークの意味など、本製品の操作に必要な内容について紹介します。特に、本製品をはじめてお使いになる場合に必ずお読みください。

各部の名称と機能

正面

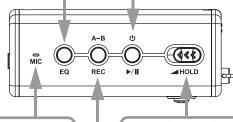
ディスプレイ
ファイル名などさまざまな情報を表示します（P.22）。

スティックコントローラー Ⓜ
上下左右に動かして、曲の再生時に曲の巻き戻し / 早送り（P.33）や音量の調節（P.32）などを行います。そのほかスティックコントローラーを**短く押して**メニュー画面を表示し、さまざまな設定項目の選択や確定を行います（P.102）。**数秒間押したまま**にすると、メイン画面になります（P.22）。

操作上の注意

スティックコントローラーや各ボタンは、操作する時間によって操作内容が変わる場合があります。
本取扱説明書では、コントローラーやボタンを短く押したり動かす場合は「**短く押す** / **短く動かす**」、2 秒以上押し続けたり数秒間動かしたままにする場合は「**数秒間押したまま**（**押し続ける**）/ **数秒間動かしたまま**」と表記しています。

上側面

EQ（イコライザ）ボタン
曲を再生するときの音質を選びます（P.104）。

電源ボタン ⏻ / 再生・停止ボタン ▶/II
数秒間押し続けると、電源を入れたり切ることができます（P.28,29）。
短く押すと、曲を再生したり停止することができます（P.31）。

MIC（マイク）
ボイス録音に使います（P.56）。

HOLD（ホールド）スイッチ
ボタンやスイッチの誤動作を防ぎます（P.30）。

A-B ボタン A-B /REC（録音）ボタン REC
曲の再生中に**短く押す**操作を 2 回行うと、その区間を繰り返して再生することができます（P.35）。
数秒間押し続けると、録音を開始します（P.56,60,74）。

右側面

バッテリーカバー

カバーを押して矢印方向に動かして単 4 型アルカリ電池を 1 本入れます。電池は必ずプラス極がカバー側にくるように入れてください（P.21）。

USB イヤホンジャック

付属の USB イヤホンケーブルを接続します。USB イヤホンケーブルの先端部分を回転させて、音楽再生時にはイヤホンジャックとして、パソコン接続時には、USB コネクターとして使用します（P.19）。

左側面

LINE-IN（ラインイン）ジャック

付属のダイレクトレコーディングケーブルを使って CD や MD などのオーディオプレイヤーと接続してダイレクトレコーディングを行います（P.60）。

付属 USB イヤホンケーブルの使いかた

本製品には、先端部分を回転させて USB コネクタやイヤホンジャックを取り出せる USB イヤホンケーブルが付属しています。

イヤホンジャックを取り出せば、付属のインナーイヤホン（P.11）を接続して音楽や FM ラジオを聴くことができます。また、USB コネクタを取り出せば、パソコンの USB ポートと接続して、データのやり取りが行えます（P.81）。

これを利用すれば、USB ケーブルを持ち歩かずに、外出先でも手軽に USB 機能を利用できます。

1 本体イヤホンジャック にUSBイヤホンケーブルを接続する

しっかり奥まで差し込んでください。

2 USB コネクタまたはイヤホンジャックを取り出す

USB イヤホンケーブルの先端を回転させて、USB コネクタまたはイヤホンジャックを取り出します。

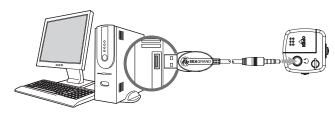
3 インナーイヤホンもしくはパソコンと接続する

音楽や FM ラジオを楽しむ場合

イヤホンジャックにインナーイヤホンを接続してください。

パソコンとファイルをやり取りする場合

USB コネクタをパソコンの USB ポートに接続してください。

パソコンへの接続および取り外しの詳細な手順、注意事項については「パソコンから本体にファイルを転送しよう 1 ～パソコンとの接続のしかた」（P.81）および「パソコンから本体にファイルを転送しよう 3 ～パソコンからの取り外しかた」（P.89）をご覧ください。

注意

● 先端部の回転は丁寧に行ってください。無理に回転して USB コネクタもしくはイヤホンジャックを取り出そうとするとケーブルを破損する場合があります。

電池の取り付けかた

本製品に使える電源は、単４型アルカリ乾電池（1 本）です。必ず指定の乾電池を使用してください。

1 バッテリーカバーを外す

図の部分を軽く押したまま矢印にそってスライドさせてください。

2 乾電池を入れる

＋と－の向きに注意してください。電池は必ず－極側から入れてください。

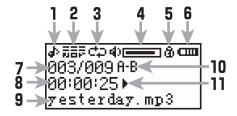
3 バッテリーカバーを取り付ける

手順 1 と逆の方法で、図の部分を軽く押したまま矢印にそって水平にスライドさせてください。

注意

- 電池を交換するときは、電源をオフにしてください。
- バッテリーカバーの取り外しや取り付けは丁寧に行ってください。無理に取り外し、または取り付けしようとすると破損する場合があります。
- 乾電池の＋ / －方向を間違えないようにご注意ください。
- 単 4 型アルカリ乾電池以外を使用すると性能が低下する場合があります。

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

ディスプレイの見かた（メイン画面）

注意

再生時や停止時によって画面の表示が異なるため、すべてのアイコンが常に表示されているわけではありません。

1		**モード表示** X-mate の状態（モード）を表示します。 ：音楽の再生または停止状態を表します。
2		**イコライザ表示（P.104）** ノーマル(NOR) / ロック(ROCK) / ジャズ(JAZZ) / クラシック（CLA）/ ポップス（POP）/ の 5 種類のうち選択したイコライザタイプを表示します。
3		**リピート / シャッフル / プレイリスト再生表示（P.106）** ノーマル / 1 曲リピート / 全曲リピート / シャッフル / シャッフルリピート / プレイリストの 6 種類のうち選択した再生方式を表示します。 ノーマルを選んだ場合は表示されません。
4		**音量レベル表示（P.32）** 再生中の音量レベルを表示します。
5		**ホールドオンマーク表示（P.30）** ホールド機能がオンの場合に、ホールドオンマークを表示します。オフの場合は表示されません。
6		**電池レベル表示（P.28）** 電池の残量（目安）を表示します。

7	003/009	**曲番号 / 曲数表示** 再生または停止中のオーディオファイルの曲番号(左)と本体内蔵メモリに保存されている全曲数(右)を表示します。
8	00:00:25	**タイムカウンター表示** 再生 / 停止中の曲の経過時間を［時：分：秒］の単位で表示します。
9	yesterday.mp3	**ファイル名表示** 再生または停止中のファイル名を表示します。 曲名情報を含んだ ID3 タグ情報（P.98）を持ったオーディオファイルの場合は、曲名を表示します。 ショートファイルネーム (半角 8 文字までのファイル名＋ [.(ピリオド)] が 1 つ＋半角 3 文字までの拡張子 で構成されているファイル名) の場合は、ファイル名の先頭に［/］がついて表示されます。
10	A-B	**A-B リピート表示（P.35）** A-B リピート（くり返し）再生を選択したときに表示されます
11	▶ ■ ❚❚	**再生 / 一時停止 / 停止表示** 左から、再生中、一時停止、停止中の各状態を表示します。

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

ディスプレイの見かた（FM ラジオ画面）

注意

FM ラジオ受信時や停止時によって画面の表示が異なるため、すべてのアイコンが常に表示されているわけではありません。

1		**モード表示** X-mate の状態（モード）を表示します。 ：FM ラジオの受信状態を表します。
2		**チャンネル / マニュアルモード表示（P.69）** ：チャンネルモードの状態を表します。 ：マニュアルモードの状態を表します。
3	87.6 MHz	**受信周波数表示** 受信中の周波数を表示します。
4	001/011	**チャンネル番号表示（P.71）** オートスキャン（自動選局）などで放送局（周波数）をチャンネルに割り当てている場合の、チャンネル番号（左）と全チャンネル数（右）を表示します。
5		**受信周波数バー表示** 受信中の周波数をバー表示します。

Windows 98SE/Me 用ドライバソフトウェアのインストールのしかた

付属ソフトウェア CD-ROM には、Windows 98SE/Me 用のドライバソフトウェアが収録されています。本製品を Windows 98SE および一部の Windows Me でお使いになる場合のみ、ドライバソフトウェアのインストールが必要です。他の OS では必要ありません。

注意

- インストール手順を間違えると、パソコンが本体を認識しなくなりますので充分にご注意ください。
- Windows 98SE/Meで本製品を使用する場合は、最初に1度だけドライバをインストールすると、次回からは、本製品をパソコンに接続するだけで使用できます。

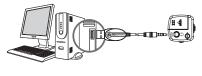
1 付属ソフトウェア CD-ROM をパソコンに挿入する

付属のソフトウェア CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブに挿入すると、自動的に Windows 98SE/Me 用ドライバソフトウェアのインストールが開始します。画面の指示にしたがって操作してください。

2 パソコンを再起動する

インストールが終了すると再起動を促すメッセージが表示されます。パソコンの CD-ROM ドライブから付属のソフトウェア CD-ROM を取り出し、[OK] をクリックしてパソコンを再起動してください。

3 パソコンと USB 接続する

付属 USB イヤホンケーブル（P.11）を使って、本体をパソコンの USB ポートに接続します。パソコンとの接続のしかたは、「パソコンから本体にファイルを転送しよう 1 ～パソコンとの接続のしかた」（P.81）をご覧ください。

4 自動的にインストールが開始する

本体がパソコンに認識されると［新しいハードウェア］ウィンドウが表示され、自動的にドライバソフトウェアのインストールが始まります。

5 インストールが完了する

［新しいハードウェア］ウィンドウが閉じればインストールは完了です。

ワンポイント

- Windows2000/XP の場合、本製品は USB マスストレージクラス対応（P.99）のため、ドライバソフトウェアのインストールは必要がなく、本体をパソコンに USB 接続すると自動的に認識されます。

すぐに使おう
（基本操作編）

～ここを読めばすぐに使えます～

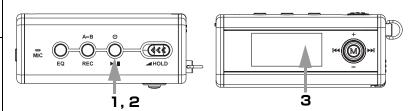
この章では、音楽の再生と FM ラジオの使い方といった、本製品のもっとも基本的な操作を説明しています。お買い上げ後、すぐに X-mate をご利用いただく場合は、ここだけ読んでも本製品をご利用いただけます。

※パソコンを利用した使い方や各種設定など、X-mate のさらに進んだ使いかたについては、この章以降のページをご覧ください。

音楽を楽しむためのマナー

電車内や多くの人がいる場所で音楽をお楽しみになる際は、周囲の人の迷惑とならない音量でお聴きください。また、夜間は小さな音も遠くまで聴こえることがありますので音量には充分配慮した上でお楽しみください。

基本の操作　電源を入れよう

1

⏻を**数秒間押したまま**にする

- ⏻を押す時間が短いと、電源は入りません。

2

［**X-mate**］と表示されたら⏻から**手を離す**

正常に電源が入るとメイン画面が表示され、音楽を再生できる状態になります。

- 電源が入った後も⏻を押し続けると電源が切れます。

3

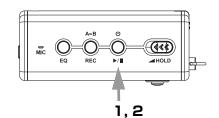
電池レベル表示を確認する

残量が少ないときは、電池を交換してください。図が右へいくほど電池残量が少ないことを表します。

注意

- 電源が入らない場合は、次の点をご確認ください。
  - ・HOLD（ホールド）スイッチがオンになっていないか（P.30）
  - ・電池が空になっていないか

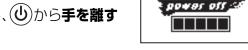
基本の操作　電源を切ろう

1

⏻を**数秒間押したまま**にする

● ⏻を押す時間が短いと、電源は切れません。

2

5つの□マークが**すべて■表示**となって3秒以上経過したら、⏻から**手を離す**

電源が切れます。

● ⏻を押し続ける時間が短い、あるいは、5つの■マークが表示して3秒以上経過した後も▶/IIを押し続けたままにすると、電源は切れません。

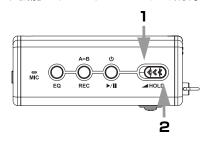
注意

● 電源が切れない場合は、次の点をご確認ください。

・⏻を押し続ける時間は正しいか
・HOLD（ホールド）スイッチがオンになっていないか（P.30）
・パソコンと接続していないか
（接続している場合は、「パソコンからの取り外しかた（P.89）」に従って、パソコンから取り外してください）

基本の操作　誤動作を防ごう（ホールド機能）

ホールド機能を使うと、気付かないうちに各種ボタンが押されるといった誤動作を防げます。ホールドスイッチを矢印方向に動かすとホールド機能がオンになります。ホールド機能がオンになっているときは、ディスプレイにホールドオンマークが表示されます。
ここでは、ホールド機能のオン / オフのしかたを説明します。

1

ホールドスイッチを**矢印方向**に動かす

ホールド機能がオンになり、ディスプレイにホールドオンマークが表示されます。

003/009 A-B
00:00:25 ▶
yesterday.mp3

2

ホールドスイッチを矢印と**反対方向**に動かす

ホールド機能がオフになり、ホールドオンマークが消えます。

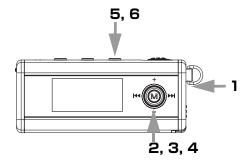
003/009 A-B
00:00:25 ▶
yesterday.mp3

ワンポイント

- ホールド機能をオンにすると、電源のオン / オフも操作できません。

すぐに使う　曲を再生しよう

X-mate は、本体で録音したり、Windows Media Player やインターネットなどを使って本体に取り込んだオーディオファイル（WMA/MP3 形式）を再生して音楽を楽しむことができます。

ここでは、曲（オーディオファイル）の再生のしかたを説明します。

ヒント

● 本製品をご購入後、すぐに再生機能を確認したい場合は、お買い上げ時にあらかじめ保存されているサンプルオーディオファイルを利用してください。

1

🎧に付属の USB イヤホンケーブル（P.19）とインナーイヤホンを接続する

2

メイン画面にする

FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、Ⓜを数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

003/009
00:00:00
yesterday.mp3

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

3

Ⓜを⏮/⏭に動かして曲を選ぶ

再生したい曲（オーディオファイル）を選びます。ディスプレイには曲名（ファイル名）と曲の番号および本体内蔵メモリに保存されている全曲数が表示されます。

003/009
00:00:00
yesterday.mp3

ヒント

- フォルダ機能を利用して、再生するファイルを選択することもできます（P.37）。

4

Ⓜを＋/－に動かして音量を調節する

音量レベルはディスプレイ上部に表示されます。

003/009
00:00:00
yesterday.mp3

注意

- 再生時に音量が上がりすぎていると、突然大きな音が鳴って耳を痛めることがあります。音量は再生しながら徐々に上げていきましょう。

5

▶/IIを**短く押して**再生する

曲が再生し、ディスプレイに経過時間が表示されます。

- ▶/IIを長く押し続けると電源が切れます（P.29）。

003/009
00:00:25
yesterday.mp3

ワンポイント

- X-mate はレジューム機能に対応しています。電源をオフにした後も、直前に再生していた曲と停止ポイントを記憶しており、次回電源を入れたときに、その曲の停止ポイントから再生することができます。

いろいろな再生のしかた

曲の再生中に、Ⓜを次のように動かすと、いろいろな再生ができます。

Ⓜ→ を▶▶|に動かしたままにする

早送りします。

←Ⓜ を|◀◀に動かしたままにする

巻き戻しします。

Ⓜ→ を▶▶|に短く動かす

次の曲を頭出し再生します。

←Ⓜ を|◀◀に短く動かす

再生中の曲を頭出し再生します

- 曲を最初から再生し始めて5秒以内に←Ⓜ を|◀◀に短く動かすと、前の曲を頭出し再生します。

6

▶/II を**短く押して**一時停止する

003/009
00:00:25 II
yesterday.mp3

再度▶/IIを短く押すと、停止したところから再生します。

- ▶/IIを長く押し続けると電源が切れます（P. 29）。

注意

- 電車内や多くの人がいる場所で音楽をお楽しみになる際は、周囲の人の迷惑とならない音量でお聴きください。また、夜間は小さな音も遠くまで聴こえることがありますので音量には充分配慮した上でお楽しみください。
- パソコンと USB 接続している状態では、再生などの本体の操作はできません。

ワンポイント

- ノーマル/ロック/ジャズ/クラシック/ポップスなど多彩な音楽ジャンルに最適化された 5 種類のプリセットイコライザで、好みの音質で音楽を楽しむことができます（イコライザ機能）（P. 104）。

- 各種繰り返し再生（リピート再生機能）（P. 106）や、曲の一部区間を繰り返し再生することもできます（A-B リピート機能）（P. 35）。
- ランダムな曲順で再生することができます（シャッフル再生機能）（P. 106）。
- 不要なオーディオファイルを本体の操作で削除することもできます（P. 41）。

ヒント

- 音質を調整するには（P. 104）
- 一部の区間を繰り返し再生するには（P. 35）

トラブル

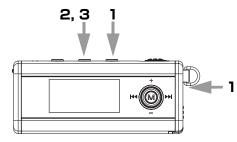
- 曲が再生できない（P. 136）
- ボタンが操作できない（P. 139）

用語

- WMA/MP3 形式とは？（P. 98）

すぐに使う　一定区間を繰り返し再生しよう（A-B リピート再生）

X-mate は、曲の再生中にリピートの開始点（A）と終点（B）を設定し、その区間を繰り返してリピート再生できます。

ここでは、A-B リピート再生のしかたを説明します。

ヒント

- 本製品をご購入後、すぐに再生機能を確認したい場合は、お買い上げ時にあらかじめ保存されているサンプルオーディオファイルを利用してください。

1

🎧に付属のUSBイヤホンケーブル（P.19）とインナーイヤホンを接続し、▶/IIを**短く押して**再生する

曲を再生します。具体的な曲の再生のしかたについては「曲を再生しよう」（P.31）をご覧ください。

- ▶/IIを長く押し続けると電源が切れます（P. 29）。

003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

2

A-Bを短く押して開始点(A)を設定する

ディスプレイに［A-］と表示されます。

003/009 A-
00:00:05
yesterday.mp3

- A-Bを長く押し続けると録音が開始されます（P. 56）。

3

A-Bを短く押して終点（B）を設定する

ディスプレイに［A-B］と表示され、A-B 区間を繰り返してリピート再生します。

003/009 A-B
00:00:25
yesterday.mp3

A-B リピート再生を解除するには、もう一度A-Bを押します。

ワンポイント

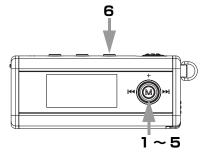
- 2 曲以上をまたがって A/B ポイントを設定することはできません。
- A/B ポイントの設定は、電源をオフにすると失われます。終点（B）を設定せずに曲が終わると、A–B リピート設定がキャンセルされます。
- 1 曲または全曲を繰り返して再生したり（リピート再生機能）（P. 106）、ランダムな曲順で再生することもできます（シャッフル再生機能）（P. 106）。

トラブル

- 曲が再生できない（P. 136）
- ボタンが操作できない（P. 139）

すぐに使う　聴きたい曲を選ぼう（フォルダ機能 1）

X-mate は、フォルダという単位ごとに曲（オーディオファイル）を管理することができます。例えば、アーティストやアルバム（CD）ごとにフォルダを作成し曲を保存しておくと、曲を探すときに便利です。

ここでは、ルートディレクトリ（内蔵メモリの最上位の階層）やフォルダに保存されている曲の選びかたを説明します。

用語

- **「ルート（root）ディレクトリ」とは、**内蔵メモリそのもののことであり、「親フォルダ」と考えることができます。ルートには、ボイスレコーディングのファイルが保存される［VOICE］フォルダ、ダイレクトレコーディングのファイルが保存される［LINE］フォルダ、FM ラジオ録音のファイルが保存される［FM］フォルダがあらかじめ用意されています。「本体内蔵メモリ［リムーバブルディスク］を開く」（P. 83）を併せてご覧ください。

ヒント

- パソコンを利用すると、ルートに複数のフォルダを作ることができます。フォルダの作りかたは「フォルダの作り方」（P. 96）をご覧ください。

1 **メイン画面**にする

FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、Ⓜを数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

2

Ⓜを**短く押して**メニュー画面にする

● Ⓜを押す時間が長いとメニュー画面になりません。

3

Ⓜを⏮/⏭に動かして［フォルダ］を選び、Ⓜを短く押す

内蔵メモリ内の保存ファイル / フォルダー一覧が表示されます。

ディスプレイ最上段に［root:/］と表示されている場合：

ルート（最上位階層）に保存されているファイル / フォルダの一覧が表示されていることを表します。

ディスプレイ最上段に［root:/..］と表示されている場合：

いずれかのフォルダに保存されているファイルの一覧が表示されていることを表します。

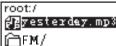
● Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

● メニュー画面にもどりたい場合は、⏯を短く押します。

● メイン画面にもどりたい場合は、Ⓜを数秒間押したままにします。

4

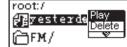
Ⓜを＋ /－に動かして聴きたい曲（オーディオファイル）を選ぶ

＋に動かすと表示されている上のファイル / フォルダを、－に動かすと下のファイル / フォルダを選べます。

フォルダ内のファイル一覧を表示したい場合：

フォルダを選んで(M)を短く押すと、選んだフォルダ内に保存されているファイル一覧が表示されます。ディスプレイ最上段には［**root:/..**］と表示されます。

フォルダ内のファイル一覧からルートの表示に戻りたい場合：

(M)を⏮に短く動かすと、一階層前のファイル／フォルダ一覧が表示されます。ディスプレイ最上段に［**root:/**］が表示されるまで繰り返します。

- メニュー画面にもどりたい場合は、▶/IIを短く押します。
- メイン画面にもどりたい場合は、(M)を数秒間押したままにします。
- 選択したフォルダにフォルダやファイルが保存されていない場合は［ノーファイル］と表示されます。

(M)を**短く押して**サブメニューを表示し、(M)を＋／－に動かして［Play］を選び、(M)を**短く押す**

メイン画面に戻り、手順４で選択した曲（オーディオファイル）が再生できる状態になります。

- 操作をキャンセルする場合は［Exit］を選んで(M)を短く押します。
- ［Play］以外の［Delete］（P. 41）、［Playlist］（P. 45）についての詳細は、それぞれの参照ページをご覧ください。

6

▶/IIを**短く押す**

選択した曲を再生します。

- ▶/IIを長く押し続けると電源が切れます（P. 29）。

ワンポイント

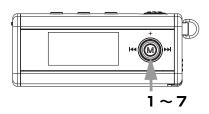
- フォルダ機能を利用して、ファイルを削除したり（P.41）、曲（オーディオファイル）をプレイリストに登録することもできます（P.45）。
- 曲の再生中に◀Ⓜ▶を動かして、前の曲や次の曲を頭出し再生することができます（P.33）。
- 曲の停止中に◀Ⓜ▶を動かして、前の曲や次の曲を選択することができます（P.33）。

トラブル

- ファイル / フォルダ一覧を表示しているときに操作がわからなくなった場合は、Ⓜを数秒間押したままにするとメイン画面に戻ります。

すぐに使う　不要な曲を削除しよう（フォルダ機能 2）

X-mate で録音したオーディオファイルや、パソコンを利用して本体内蔵メモリに保存したファイルのうち、不要なファイルは、パソコンを使わずに本体の操作のみで削除することができます。

ここでは、ルートディレクトリ（内蔵メモリの最上位の階層）やフォルダに保存されているファイルの削除のしかたを説明します。

用語

● **「ルート（root）ディレクトリ」とは**、内蔵メモリそのもののことであり、「親フォルダ」と考えることができます。ルートには、ボイスレコーディングのファイルが保存される［VOICE］フォルダ、ダイレクトレコーディングのファイルが保存される［LINE］フォルダ、FM ラジオ録音のファイルが保存される［FM］フォルダがあらかじめ用意されています。「本体内蔵メモリ［リムーバブルディスク］を開く」（P.83）を併せてご覧ください。

ヒント

● パソコンを利用して、ファイル / フォルダを削除することもできます。詳細は、「ファイル / フォルダの削除のしかた」（P.92）をご覧ください。

1

メイン画面にする

FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、Ⓜを数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

2

Ⓜを**短く押して**メニュー画面にする

- Ⓜを押す時間が長いとメニュー画面になりません。

3

Ⓜを|◀◀/▶▶|に動かして［フォルダ］を選び、Ⓜを**短く押す**

内蔵メモリ内の保存ファイル / フォルダ一覧が表示されます。

ディスプレイ最上段に［root:/］と表示されている場合：

ルート（最上位階層）に保存されているファイル / フォルダの一覧が表示されていることを表します。

ディスプレイ最上段に［root:/..］と表示されている場合：

いずれかのフォルダに保存されているファイルの一覧が表示されていることを表します。

- Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。
- メニュー画面にもどりたい場合は、▶/IIを短く押します。
- メイン画面にもどりたい場合は、Ⓜを数秒間押したままにします。

4

Ⓜを＋ /－に動かして削除したい曲（オーディオファイル）を選ぶ

＋に動かすと表示されている上のファイル / フォルダを、－に動かすと下のファイル / フォルダを選べます。

フォルダ内のファイル一覧を表示したい場合：

フォルダを選んでⓂを短く押すと、選んだフォルダ内に保存されているファイル一覧が表示されます。ディスプレイ最上段には［**root:/..**］と表示されます。

フォルダ内のファイル一覧からルートの表示に戻りたい場合：

Ⓜを⏮に短く動かすと、一階層前のファイル / フォルダ一覧が表示されます。ディスプレイ最上段に［**root:/**］が表示されるまで繰り返します。

- メニュー画面にもどりたい場合は、▶/IIを短く押します。
- メイン画面にもどりたい場合は、Ⓜを数秒間押したままにします。
- 選択したフォルダにフォルダやファイルが保存されていない場合は［ノーファイル］と表示されます。

5

Ⓜを**短く押して**サブメニューを表示し、Ⓜを＋ /−に動かして［Delete］を選び、Ⓜを**短く押す**

- 操作をキャンセルする場合は［Exit］を選んでⓂを短く押します。
- ［Delete］以外の［Play］（P. 37）、［Playlist］（P. 45）についての詳細は、それぞれの参照ページをご覧ください。

6

Ⓜを⏮/⏭に動かして[はい]を選ぶ

root:/
削除しますか
はい　いいえ

本当に削除してよいか確認画面が表示されます。
削除してよければ［**はい**］を、削除を中止したい場合は［**いいえ**］を選びます。

- 一度削除したファイルは元に戻せません。充分にご確認のうえ操作してください。
- 次の手順7で削除の操作を始めると、途中でキャンセルすることはできません。

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

7

Ⓜを**短く押して**削除を実行する

root:/

削除しました

［削除しました］と表示されたら、削除の完了です。手順 3 の状態（ファイル / フォルダ一覧表示）に戻るので、続けてファイルを削除したい場合は、手順 4 以降を繰り返してください。

正常に削除が行われなかった場合は［削除失敗］と表示されます。再度、削除を実行してください。

操作を終了したい場合は、Ⓜを数秒間押したままにするとメイン画面に戻ります。

注意

- 一度削除したファイルは元に戻せません。充分にご確認のうえ、操作してください。

ワンポイント

- フォルダは削除できません。
- フォルダ機能を利用して、曲（オーディオファイル）を選んで再生したり（P. 37）、曲をプレイリストに登録することもできます（P. 45）。

ヒント

- 手順 3 でファイル一覧を表示させると、直前のメイン画面（手順 1）で再生または停止していた曲（オーディオファイル）が自動的に選択されます。そのため、メイン画面で削除したい曲を◀Ⓜ▶を動かして選んでから、メニュー画面で［フォルダ］を選ぶと、すぐに手順 5 の操作を行うことができます。

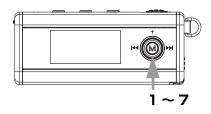
トラブル

- ファイル / フォルダ一覧を表示しているときに操作がわからなくなった場合は、Ⓜを数秒間押したままにするとメイン画面に戻ります。

すぐに使う　好みの曲をプレイリストに登録（消去）しよう（フォルダ機能 3）

X-mate で録音したオーディオファイルや、パソコンから本体内蔵メモリに転送した曲（オーディオファイル）の中から、お気に入りの曲だけを［Playlist（プレイリスト）］に登録し、再生することができます。

プレイリストを利用すると、聴きたい曲だけを登録した順番に再生することができます。

ここでは、プレイリストへの登録のしかたとプレイリストからの消去のしかたを説明します。

用語

● **「ルート（root）ディレクトリ」とは**、内蔵メモリそのもののことであり、「親フォルダ」と考えることができます。ルートには、ボイスレコーディングのファイルが保存される［VOICE］フォルダ、ダイレクトレコーディングのファイルが保存される［LINE］フォルダ、FM ラジオ録音のファイルが保存される［FM］フォルダがあらかじめ用意されています。「本体内蔵メモリ［リムーバブルディスク］を開く」（P.83）を併せてご覧ください。

ヒント

● プレイリストの再生のしかたは、「プレイリストを再生しよう」（P.50）をご覧ください。

1

メイン画面にする

FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、Ⓜを数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

003/009
00:00:00
yesterday.mp3

2

Ⓜを**短く押して**メニュー画面にする

- Ⓜを押す時間が長いとメイン画面になりません。

3

Ⓜを⏮/⏭に動かして［フォルダ］を選び、Ⓜを**短く押す**

内蔵メモリ内の保存ファイル / フォルダ一覧が表示されます。

ディスプレイ最上段に［root:/］と表示されている場合：

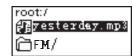
ルート（最上位階層）に保存されているファイル / フォルダの一覧が表示されていることを表します。

ディスプレイ最上段に［root:/..］と表示されている場合：

いずれかのフォルダに保存されているファイルの一覧が表示されていることを表します。

- Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。
- メニュー画面にもどりたい場合は、⏯を短く押します。
- メイン画面にもどりたい場合は、Ⓜを数秒間押したままにします。

4

Ⓜ を＋ /ーに動かしてプレイリストに登録したい曲（オーディオファイル）を選ぶ

＋に動かすと表示されている上のファイル/フォルダを、ーに動かすと下のファイル / フォルダを選べます。

フォルダ内のファイル一覧を表示したい場合：

フォルダを選んでⓂを短く押すと、選んだフォルダ内に保存されているファイル一覧が表示されます。ディスプレイ最上段には［**root:/..**］と表示されます。

フォルダ内のファイル一覧からルートの表示に戻りたい場合：

Ⓜを⏮に短く動かすと、一階層前のファイル / フォルダ一覧が表示されます。ディスプレイ最上段に［**root:/**］が表示されるまで繰り返します。

- メニュー画面にもどりたい場合は、⏯を短く押します。
- メイン画面にもどりたい場合は、Ⓜを数秒間押したままにします。
- 選択したフォルダにフォルダやファイルが保存されていない場合は［ノーファイル］と表示されます。

5

Ⓜを**短く押して**サブメニューを表示し、Ⓜ を＋ /ーに動かして［Playlist］を選び、Ⓜを**短く押す**

- 操作をキャンセルする場合は［Exit］を選んでⓂを短く押します。
- ［Delete］以外の［Play］（P. 37）、［Delete］（P. 41）についての詳細は、それぞれの参照ページをご覧ください。

6

↓Ⓜ↑を＋ /－に動かして［Add］または［Exit］を選ぶ

プレイリストに登録する場合

プレイリストに登録してよければ［**Add**］を選びます。

プレイリストから消去する場合

既にプレイリストに登録している曲をプレイリストから消去したい場合、もしくは、登録を中止したい場合は［**Exit**］を選びます。

7

Ⓜを**短く押して**プレイリストに追加（消去）する

root:/
☆yesterday.mp3
FM/

手順 3 のファイル / フォルダ一覧表示に戻り、プレイリストに登録したファイルには☆マークが付きます。プレイリストから消去すると☆マークから通常のマークに戻ります。

続けてファイルをプレイリストに追加 / 消去したい場合は、手順 4 以降を繰り返してください。

操作を終了したい場合は、Ⓜを数秒間押したままにするとメイン画面に戻ります。

ワンポイント

- プレイリストに登録または消去しても、元となる曲（オーディオファイル）の保存先が移動したり、ファイルが削除されることはありません。
- フォルダ機能を利用して、曲（オーディオファイル）を選んで再生したり(P. 37)、削除することもできます（P. 41）。
- プレイリストに登録できるファイル数の上限を超えると、登録時に［追加上限です］と表示され、プレイリストへの追加ができません。

ヒント

● 手順 3 でファイル一覧を表示させると、直前のメイン画面（手順 1）で再生または停止していた曲（オーディオファイル）が自動的に選択されます。そのため、メイン画面でプレイリストに登録したい曲を◀Ⓜ▶を動かして選んでから、メニュー画面で［フォルダ］を選ぶと、すぐに手順 5 の操作を行うことができます。

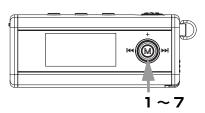
トラブル

● ファイル ／ フォルダ一覧を表示しているときに操作がわからなくなった場合は、Ⓜを数秒間押したままにするとメイン画面に戻ります。

すぐに使う　プレイリストを再生しよう

X-mate で録音したオーディオファイルや、パソコンから本体内蔵メモリに転送した曲（オーディオファイル）の中から、お気に入りの曲だけを［Playlist（プレイリスト)］に登録し、再生することができます。

プレイリストを利用すると、聴きたい曲だけを登録した順番に再生することができます。

ここでは、プレイリストの再生のしかたを説明します。

用語

- **「ルート（root）ディレクトリ」とは、**内蔵メモリそのもののことであり、「親フォルダ」と考えることができます。ルートには、ボイスレコーディングのファイルが保存される［VOICE］フォルダ、ダイレクトレコーディングのファイルが保存される［LINE］フォルダ、FM ラジオ録音のファイルが保存される［FM］フォルダがあらかじめ用意されています。「本体内蔵メモリ［リムーバブルディスク］を開く」（P. 83）を併せてご覧ください。

ヒント

- プレイリストへの登録（消去）のしかたは、「好みの曲をプレイリストに登録（消去）しよう（フォルダ機能 3)」（P. 45）をご覧ください。

1

メイン画面にする

FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、Ⓜを数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

2

Ⓜを**短く押して**メニュー画面にする

- Ⓜを押す時間が長いとメニュー画面になりません。

3

◀Ⓜ▶を⏮/⏭に動かして［設定］を選び、Ⓜを**短く押す**

設定メニュー一覧が表示されます。

- Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

4

◀Ⓜ▶を⏮/⏭に動かして［リピート］を選び、Ⓜを**短く押す**

リピートメニュー一覧が表示されます。

5

◀Ⓜ▶を⏮/⏭に動かして［プレイリスト］を選ぶ

- プレイリスト再生から、通常の再生方式に戻したい場合は、リピートメニュー一覧から［ノーマル］を選びます。

6

Ⓜを**数秒間押したまま**にする

メイン画面に戻り、プレイリストが再生できる状態になります。

003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

● Ⓜを短く押してメニュー一覧に戻り、◂Ⓜ▸を左右に動かし［戻る］を選んでⓂを短く押す操作を2回繰り返しても、メイン画面に戻れます。

7

▶/IIを**短く押して**再生する

プレイリストが再生します。曲順（再生順）は、プレイリストに登録した順になります。

003/009
00:00:25 ▶
yesterday.mp3

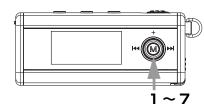
● ▶/IIを長く押し続けると電源が切れます（P.29）。

ワンポイント

● プレイリスト再生から、通常の再生方式に戻したい場合は、手順5でリピートメニュー一覧から［ノーマル］を選び、Ⓜを短く押します。

すぐに使う　録音する音源を設定しよう（ソース設定）

X-mate は、内蔵マイクを使った**ボイスレコーディング**（P.56）と、CD や MD などのオーディオ機器から直接録音できる**ダイレクトレコーディング**（P.60）の 2 つの録音方式があり、［**ソース（録音音源）**］を［マイク］か［ライン］に設定することで、録音方式を切り替えられます。

ここでは録音を始める前に、ソースを設定する方法を説明します。

用語

- **「ソース」とは**、「録音する音源」のことです。［マイク］か［ライン］のいずれかを選択できます。お買い上げ時には［マイク］に設定されており、ボイスレコーディングができる状態となっています。

ヒント

- 本製品お買い上げ後、すぐに録音機能を確認したい場合は、「内蔵マイクで録音しよう（ボイス録音）」（P. 56）にお進みください。お買い上げ時の録音設定は、以下のとおりです。
  - ・ソース（録音音源）: マイク
  - ・録音形式（ファイル形式）: WAV
  - ・音質 : 標準
  - ・オートシンク : 無効　※ダイレクトレコーディング時のみ有効
- ソース以外の録音設定項目（［録音形式（P. 110）］、［音質（P. 112）］、［オートシンク（P. 115）］）の設定については、それぞれの参照ページをご覧ください。

1

メイン画面にする

FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、Ⓜを数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

準備　再生／録音　FMラジオ　パソコン活用　応用編　困った時は　付録／索引

2

Ⓜを**短く押して**メニュー画面にする

- Ⓜを押す時間が長いとメニュー画面になりません。

3

←Ⓜ→を⏮/⏭に動かして［設定］を選び、Ⓜを**短く押す**

設定メニュー一覧が表示されます。

- Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

4

←Ⓜ→を⏮/⏭に動かして［録音設定］を選び、Ⓜを**短く押す**

録音設定メニュー一覧が表示されます。

5

←Ⓜ→を⏮/⏭に動かして［ソース］を選び、Ⓜを**短く押す**

ソース（録音音源）設定メニューが表示されます。

6

◀M▶を⏮/⏭に動かして［マイク］または［ライン］を選ぶ

どの音を録音するか設定します。

ソース
マイク　ライン

［マイク］（ボイスレコーディング）
内蔵マイクの音を録音します（P.56）。

［ライン］（ダイレクトレコーディング）
［LINE-IN］端子に接続したオーディオ機器の音を録音します（P.60）。

7

Mを**数秒間押したまま**にする

ソース（録音音源）を決定してメイン画面に戻り、曲の再生や録音ができる状態になります。

003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

- Mを短く押して録音設定メニュー一覧に戻り、◀M▶を左右に動かし［戻る］を選んでMを短く押す操作を 3 回繰り返しても、メイン画面に戻れます。
- ソース以外の録音設定項目（［録音形式 (P.110)］、［音質 (P.112)］、［オートシンク (P.115)］）の設定については、それぞれの参照ページをご覧ください。

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

すぐに使う　内蔵マイクで録音しよう（ボイス録音）

X-mate はマイクを内蔵しており、本体だけで手軽にボイス録音（ボイスレコーディング）ができます。会議や語学レッスンをはじめ、とっさのときにボイスメモを残すのに便利です。

ボイス録音は、REC を長押しして録音を行う方法と、メニュー操作から録音を行う方法（P.57）の２とおりがあります。ここでは、それぞれの録音手順について説明します。

準備

● ［ソース（録音音源）］を［マイク］に設定しておきます。設定のしかたは「録音する音源を設定しよう（ソース設定）」（P. 53）をご覧ください（お買い上げ時は［マイク］に設定されています）。

◎ REC を長押しして録音する方法

1 **メイン画面**にする

FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、M を数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

```
003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3
```

2

(REC)を**数秒間押したまま**にすると、録音が開始する

録音画面になり、録音ファイル名、録音経過時間、録音可能時間が表示されます。

00:00:23
00:45:32 ●
/VOICE/V006.WAV

● (REC)を押す時間が短いと、録音は開始されません。

3

(▶/II)を**短く押して**録音を停止する

ファイルが保存され、メイン画面に戻ります。

003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

● (▶/II)を長く押し続けると電源が切れます（P. 29）。

◎メニュー操作から録音を開始する方法

1

メイン画面にする

FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、(M)を数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

2

Ⓜを**短く押して**メニュー画面にする

- Ⓜを押す時間が長いとメニュー画面になりません。

3

◀Ⓜ▶を|◀◀/▶▶|に動かして［録音］を選ぶ

4

Ⓜを**短く押すと**録音が開始する

00:00:23
00:45:32 ●
/VOICE/V006.WAV

録音画面になり、録音ファイル名、録音経過時間、録音可能時間が表示されます。

- Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

5

▶/IIを**短く押して**録音を停止する

003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

ファイルが保存され、自動的にメイン画面に戻ります。

- ▶/IIを長く押し続けると電源が切れます（P.29）。

注意

- 録音の音量レベルは、再生側の音量に依存します。本体で音量レベル設定はできませんのでご注意ください。
- 録音したい音源の方向に内蔵マイクを向けて録音してください。
- 電池の残量が少ないと、[ローバッテリー] と表示され、録音が停止します。録音時は、充分に残量のある電池をお使いください。
- 録音時にイヤホンから聴こえる音量・音質は、再生時のものと異なります。事前に試し録音をして、再生時の音量・音質をご確認ください。
- 操作上の問題または本製品の不具合により、正常に録音されなかった場合の録音内容については保証致しかねます。あらかじめご了承ください。

ワンポイント

- ボイスレコーディングしたオーディオファイルは、V001.***、V002.***、V003.***…（*** は WAV または MP3）というファイル名で [VOICE] フォルダ内に保存されます。
- 録音するオーディオファイルの形式は、WAV または MP3 のいずれかを選べます (P.110)。
- 録音の音質は 3 段階の中から選べます（P.112)。
- 内蔵メモリの空き容量がない状態では、ディスプレイに [空き容量が不足です] と表示され録音ができません。不要なファイルを削除したり（P.41）、パソコンに必要なファイルをバックアップする（P.91）などして、メモリの空き容量を増やしたうえで録音を行ってください。

ヒント

- 録音したファイルをパソコンにバックアップ（複製保存）するには（P.91）
- 録音時の音質を変更するには（P.112）

トラブル

- 録音できない（P.137）
- 録音した音が悪い（P.137）
- 録音した音が異常に小さい（P.137）
- ボタンが操作できない（P.139）

すぐに使う　オーディオ機器と接続して録音しよう（ダイレクトレコーディング）

X-mate は、付属のダイレクトレコーディングケーブルを使えば、パソコンを使わずに、直接 CD や MD プレイヤーなどのオーディオ機器からダイレクトレコーディングができます。

ダイレクトレコーディングは、Ⓡを長押しして録音を行う方法と、メニュー操作から録音を行う方法（P.62）の2とおりがあります。ここでは、それぞれの録音手順について説明します。

準備

- **［ソース（録音音源）］を［ライン］に設定しておきます。**設定のしかたは「録音する音源を設定しよう（ソース設定）」(P.53) をご覧ください（お買い上げ時は［マイク］に設定されています）。
- 付属ダイレクトレコーディングケーブルの**細いプラグ(2.5mm)**を本体の**[LINE-IN] ジャック**に接続し、**太いプラグ (3.5mm)** をオーディオ機器の**イヤホンジャック**に接続します。

◎REC を長押しして録音する方法

1 メイン画面にする

FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、Ⓜを数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

2 REC を数秒間押したままにすると、録音が開始する

録音画面になり、録音ファイル名、録音経過時間、録音可能時間が表示されます。

- REC を押す時間が短いと録音は開始されません。

00:00:23
00:45:32 ●
/LINE/L006.WAV

3 ▶/II を短く押して録音を停止する

ファイルが保存され、自動的にメイン画面に戻ります。

- ▶/II を長く押し続けると電源が切れます（P.29）。

003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

◎メニュー操作から録音を開始する方法

1

メイン画面にする

FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、Ⓜを数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

2

Ⓜを**短く押して**メニュー画面にする

- Ⓜを押す時間が長いとメニュー画面になりません。

3

◀Ⓜ▶を⏮/⏭に動かして［録音］を選ぶ

4

Ⓜを**短く押すと**録音が開始する

録音画面になり、録音ファイル名、録音経過時間、録音可能時間が表示されます。

- RECを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

00:00:23
00:45:32 ●
/LINE/L006.WAV

5

▶/IIを**短く押して**録音を停止する

ファイルが保存され、自動的にメイン画面に戻ります。

- ▶/IIを長く押し続けると電源が切れます（P.29）。

003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

注意

- 録音の音量レベルは、再生側の音量に依存します。本体で音量レベル設定はできませんのでご注意ください。
- 電池の残量が少ないと、[ローバッテリー]と表示され、録音が停止します。録音時は、充分に残量のある電池をお使いください。
- 録音時にイヤホンから聴こえる音量・音質は、再生時のものと異なります。事前に試し録音をして、再生時の音量・音質をご確認ください。
- 操作上の問題または本製品の不具合により、正常に録音されなかった場合の録音内容については保証致しかねます。あらかじめご了承ください。

ワンポイント

- ダイレクトレコーディングしたオーディオファイルは、L001.***、L002.***、L003.***…（*** は WAV または MP3）というファイル名で[LINE]フォルダ内に保存されます。
- 録音するオーディオファイルの形式は、WAV または MP3 のいずれかを選べます（P.110）。
- 録音の音質は 3 段階の中から選べます（P.112）。
- 内蔵メモリの空き容量がない状態では、ディスプレイに[空き容量が不足です]と表示され録音ができません。不要なファイルを削除したり（P.41）、パ

ソコンに必要なファイルをバックアップする（P.91）などして、メモリの空き容量を増やしたうえで録音を行ってください。

- ダイレクトレコーディング時には、オートシンク機能が利用できます。これは、一度の録音操作でCDやMDの曲間の無音部分を検知し、曲ごとに録音ファイルを自動分割して保存できる機能です。CDやMDなどからたくさんの曲をダイレクトレコーディングする際にとても便利です。オートシンク機能の詳細は「曲ごとにファイルを分割して録音しよう（オートシンク）」（P.115）をご覧ください。

ヒント

- 録音したファイルをパソコンにバックアップ（複製保存）するには（P.91）
- 録音時の音質を変更するには（P.112）

トラブル

- 録音できない（P.137）
- 録音した音が悪い（P.137）
- 録音した音が異常に小さい（P.137）
- ボタンが操作できない（P.139）

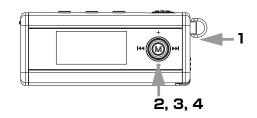
すぐに使う　FM ラジオを聴こう 1 ～ FM ラジオ画面にする

X-mate には、FM ラジオや 1 ～ 3ch の TV 音声の再生にも対応した FM チューナーが内蔵されています。76MHz ～ 108MHz の範囲内であれば海外でも利用できます。

FM ラジオを聴くには、次の 3 ステップの操作を行います。

1：FM ラジオ画面にする
2：オートスキャン（自動選局）をする（P.68）
3：チャンネル（放送局）を選ぶ（P.71）

ここでは、ステップ1の「FM ラジオ画面にする方法」を説明します。ステップ 2、3 については、各参照ページをご覧ください。

1

に付属の USB イヤホンケーブル（P.19）とインナーイヤホンを接続する

本製品はイヤホンアンテナ方式によって電波を受信します。FM ラジオを聴くときは、必ずインナーイヤホンをイヤホンジャックに接続してください。

2

メイン画面にする

メニュー画面が表示されているときは、手順 4 に進んでください。

3

Ⓜを**短く押して**メニュー画面にする

- Ⓜを押す時間が長いとメニュー画面になりません。

4

◀Ⓜ▶を|◀◀/▶▶|に動かして［FMラジオ］を選び、Ⓜを**短く押す**

FM ラジオ画面に切り替わります。

- Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。
- FM ラジオ画面にした直後は、自動的にチャンネルモードになります。チャンネルモードについては「チャンネルモードになっていることを確認する」（P. 72）をご覧ください。
- ご購入後、最初に FM ラジオ画面に切り替えたときには、自動的にオートスキャン（自動選局）が始まります（P. 68）。

5

ステップ 2『オートスキャン（自動選局）をする』

「FM ラジオを聴こう 2 ～オートスキャン（自動選局）をする」（P.68）の手順 2 にお進みください。

ワンポイント

- 国内で FM ラジオを聴くには、FM ラジオ設定（P.122）を［日本］に設定する必要があります（お買い上げ時には［日本］に設定されています）。
- 電池の残量が少ないと雑音が発生しやすくなります。充分に残量のある電池をお使いください。
- 電車内や多くの人がいる場所で音楽をお楽しみになる際は、周囲の人の迷惑とならない音量でお聴きください。また、夜間は小さな音も遠くまで聴こえることがありますので音量には充分配慮した上でお楽しみください。

ヒント

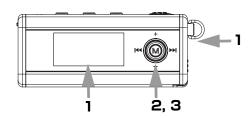
- 手動で放送局（周波数）を設定するには（P.124）
- 手動で設定した放送局（周波数）をチャンネル番号に登録するには（P.126）
- FM ラジオを録音するには（P.74）

すぐに使う FM ラジオを聴こう 2 ～オートスキャン（自動選局）をする

FM ラジオのオートスキャン（自動選局）を使えば、自動的に FM ラジオの放送局（周波数）を検出し、チャンネル番号に割り当てて記憶させることができます。一度オートスキャンを行った後は、チャンネルを選ぶだけですぐに聴きたい放送局を呼び出すことができます。

FM ラジオを聴くには、次の 3 ステップの操作を行います。

1：FM ラジオ画面にする（P.65）
2：オートスキャン（自動選局）をする
3：チャンネル（放送局）を選ぶ（P.71）

ここでは、ステップ 2 の「オートスキャン（自動選局）のしかた」を説明します。ステップ 1、3 については、各参照ページをご覧ください。

1

🎧に付属の USB イヤホンケーブル（P.19）とインナーイヤホンを接続し、**FM ラジオ画面**にする

FM ラジオ画面にする方法は、「FM ラジオを聴こう 1 ～ FM ラジオ画面にする」（P.65）をご覧ください。

2

チャンネルモードになっていることを確認する

チャンネルモードとは、オートスキャン（自動選局）を行ったり、オートスキャン後にチャンネルを選択できる状態（モード）で、ディスプレイ左上の表示が図のようになります（P.24）。

FM ラジオ画面にした直後は、自動的にチャンネルモードになります。

マニュアルモードとは、放送局（周波数）を手動で設定できる状態（モード）で、ディスプレイ左上の表示が図のようになります（P.24）。マニュアルモードについては、「FM ラジオの放送局（周波数）を手動で設定しよう」（P.124）をご覧ください。

Ⓜを短く押すごとに、**チャンネルモード**と**マニュアルモード**が切り替わります。

- Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

3

Ⓜ→を▶▶|に**数秒間動かしたまま**にして、オートスキャンを開始する

ディスプレイ右上に表示されるチャンネル番号が、放送局を検出するごとに［001/000］から増えていきます。チャンネル番号が動きはじめたら、Ⓜから手を離します。

オートスキャンが完了すると、チャンネル番号が［001/020］（20 局を検出した場合）と表示され、チャンネル 1 の放送局（周波数）が再生されます。

ワンポイント

- ご購入後、最初に FM ラジオ画面に切り替えたときには、自動的にオートスキャン（自動選局）が始まります。
- オートスキャン完了直後に再度オートスキャンを実行する場合は、一度▶/IIを短く押して FM ラジオの再生を一時停止状態にしてから、手順 4 の操作を行ってください。

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

4

ステップ 3『チャンネル（放送局）を選ぶ』

「FM ラジオを聴こう 3 ～チャンネル（放送局）を選ぶ」（P.71）の手順 3 にお進みください。

注意

- オートスキャン（自動選局）を行うと、それ以前に行ったオートスキャンの内容や手動で放送局（周波数）を割り当てたチャンネル設定の内容は、全て上書きされます。

ワンポイント

- 国内で FM ラジオを聴くには、FM ラジオ設定（P.122）を［日本］に設定する必要があります（お買い上げ時には［日本］に設定されています）。
- 電池の残量が少ないと雑音が発生しやすくなります。充分に残量のある電池をお使いください。
- 電車内や多くの人がいる場所で音楽をお楽しみになる際は、周囲の人の迷惑とならない音量でお聴きください。また、夜間は小さな音も遠くまで聴こえることがありますので音量には充分配慮した上でお楽しみください。

ヒント

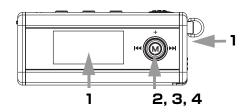
- 手動で放送局（周波数）を設定するには（P.124）
- 手動で設定した放送局（周波数）をチャンネル番号に登録するには（P.126）
- FM ラジオを録音するには（P.74）

すぐに使う FM ラジオを聴こう 3 〜チャンネル（放送局）を選ぶ

オートスキャン（自動選局）（P.68）や手動設定（P.126）で放送局（周波数）をチャンネルに割り当てておくと、チャンネル番号を選ぶだけで、すぐに聴きたい放送局を呼び出すことができます。

FM ラジオを聴くには、次の 3 ステップの操作を行います。

1：FM ラジオ画面にする（P.65）
2：オートスキャン（自動選局）をする（P.68）
3：チャンネル（放送局）を選ぶ

ここでは、ステップ 3 の「チャンネル（放送局）の選びかた」を説明します。ステップ 1、2 については、各参照ページをご覧ください。

ヒント

- ご購入後、最初に FM ラジオ画面に切り替えたときには、自動的にオートスキャン（自動選局）が始まります（P. 68）。
- 手動で設定した放送局（周波数）をチャンネル番号に自由に割り当てることもできます（P. 126）。

1

🎧に付属の USB イヤホンケーブル（P.19）とインナーイヤホンを接続し、**FM ラジオ画面**にする

FM ラジオ画面にする方法は、「FM ラジオを聴こう 1 〜 FM ラジオ画面にする」（P.65）をご覧ください。

2

チャンネルモードになっていることを確認する

チャンネルモードとは、オートスキャン（自動選局）を行ったり、オートスキャン後にチャンネルを選択できる状態（モード）で、ディスプレイ左上の表示が図のようになります。

FM ラジオ画面にした直後は、自動的にチャンネルモードになります。

マニュアルモードとは、放送局（周波数）を手動で設定できる状態（モード）で、ディスプレイ左上の表示が図のようになります。マニュアルモードについては、「FM ラジオの放送局（周波数）を手動で設定しよう」（P.124）をご覧ください。

Ⓜを短く押すごとに、**チャンネルモード**と**マニュアルモード**が切り替わります。

- Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

3

◀Ⓜ▶を⏮/⏭に**短く動かして**、聴きたいチャンネル番号を選ぶ

⏭に短く動かすとチャンネル番号が、001,002,003…と変わり、⏮に短く動かすと 003,002,001…と変わります。

ディスプレイには、チャンネル番号と割り当てられている周波数が表示され、FM ラジオを受信します。

- ⏭に数秒間動かしたままにすると、オートスキャンが開始します（P.68）。
- 放送局（周波数）がチャンネルに割り当てられていない場合は、先にオートスキャン（自動選局）を行ってください（P.68）。

4

FMラジオを終了したときは、Ⓜを**数秒間押したまま**にする

メイン画面に戻り、音楽の再生や録音ができる状態に戻ります。

003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

ワンポイント

- 国内で FM ラジオを聴くには、FM ラジオ設定（P.122）を［日本］に設定する必要があります（お買い上げ時には［日本］に設定されています）。
- 電池の残量が少ないと雑音が発生しやすくなります。充分に残量のある電池をお使いください。
- 電車内や多くの人がいる場所で音楽をお楽しみになる際は、周囲の人の迷惑とならない音量でお聴きください。また、夜間は小さな音も遠くまで聴こえることがありますので音量には充分配慮した上でお楽しみください。

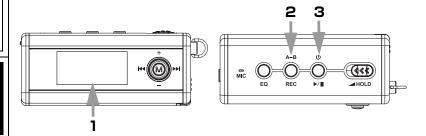
ヒント

- 手動で放送局（周波数）を設定するには（P.124）
- 手動で設定した放送局（周波数）をチャンネル番号に登録するには（P.126）
- FM ラジオを録音するには（P.74）

すぐに使う　FM ラジオを録音しよう (FM レコーディング)

X-mate は、FM ラジオを聴きながら、その内容を録音できます。気になった音楽や、保存しておきたい放送を、ボタンひとつですぐに録音できます。

ここでは、FM ラジオの録音のしかたを説明します。

1

FM ラジオを受信する

FM ラジオの受信のしかたは、以下の参照ページをご覧ください。

1：FM ラジオ画面にする（P.65）
2：オートスキャン（自動選局）をする（P.68）
3：チャンネル（放送局）を選ぶ（P.71）

2

(REC)を**数秒間押したまま**にすると、録音が開始する

00:00:23
00:45:32 ●
/FM/F006.WAV

録音画面になり、録音ファイル名、録音経過時間、録音可能時間が表示されます。

● (REC)を押す時間が短いと録音は開始されません。

3

▶/IIを**短く押して**録音を停止する

ファイルが保存され、自動的にメイン画面に戻ります。

- ▶/IIを長く押し続けると電源が切れます（P. 29）。

注意

- 録音の音量レベルは、再生側の音量に依存します。本体で音量レベル設定はできませんのでご注意ください。
- 録音時にイヤホンから聴こえる音量・音質は、再生時のものと異なります。事前に試し録音をして、再生時の音量・音質をご確認ください。
- 電池の残量が少ないと、[ローバッテリー] と表示され、録音が停止します。録音時は、充分に残量のある電池をお使いください。
- 操作上の問題または本製品の不具合により、正常に録音されなかった場合の録音内容については保証致しかねます。あらかじめご了承ください。
- FM 放送を MP3 形式で録音すると電池の消耗が早くなります。FM 放送を録音する場合は録音形式を WAV 形式に設定してください（P. 110）。

ワンポイント

- FM ラジオ録音したオーディオファイルは、F001.***、F002.***、F003.***…（*** は WAV または MP3）というファイル名で [FM] フォルダ内に保存されます。
- 録音の音質は 3 段階の中から選べます（P. 112）。
- 内蔵メモリの空き容量がない状態では、ディスプレイに [空き容量が不足です] と表示され録音ができません。不要なファイルを削除したり（P. 41）、パソコンに必要なファイルをバックアップする（P. 91）などして、メモリの空き容量を増やしたうえで録音を行ってください。
- 電池の残量が少ないと雑音が発生しやすくなります。充分に残量のある電池をお使いください。
- FM ラジオを録音する場合は、ソース（録音音源）の設定は不要です。

ヒント

- 録音したファイルをパソコンにバックアップ（複製保存）するには（P.91）
- 録音時の音質を変更するには（P.112）

トラブル

- 録音できない（P.137）
- 録音した音が悪い（P.137）
- 録音した音が異常に小さい（P.137）
- ボタンが操作できない（P.139）

パソコンを活用しよう（基本操作編）

この章では、パソコンを利用した X-mate の活用方法やパソコンとの接続のしかた／取り外しかたなどについて説明しています。本製品とパソコンを USB 接続することで、いろいろな曲（オーディオファイル）を本製品に転送して音楽を楽しむことができます。

※パソコンを利用しない場合は、次章の「応用編」にお進みください。

PC活用術　音楽 CD をパソコンに取り込もう

Windows に標準で用意されているアプリケーション［Windows Media Player］を使って、お気に入りの音楽 CD をオーディオファイルとしてパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込んだオーディオファイルを本体内蔵メモリに転送すれば、お気に入りの音楽を X-mate で手軽に楽しめます。

ここでは、Windows Media Player を使って、音楽 CD をパソコンに取り込む方法を簡単に説明します。

用語

- **Windows Media Player とは**、Windows に標準装備されているマルチメディアコンテンツ再生ソフトウェアで、音声や動画の再生が楽しめます。Microsoft 社が無償で配布しており、最新はバージョン 10 です（2005 年 10 月現在 / ただしバージョン 10 は Windows XP のみで使用可能）。

注意

- Windows Media Player はバージョン 9 以降をご使用ください。本書はバージョン 10 の画面で説明しています。バージョン 9 をお使いの方は、手順説明内のバージョン 9 用表記をご参考ください。
- Windows Media Player の詳細な使い方は、同アプリケーションの［ヘルプ］をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。

1

Windows Media Player を起動する

Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［Windows Media Player］を選択します。

2

音楽 CD をパソコンのドライブに入れる

- パソコンの設定により音楽CDが自動再生される場合は、停止ボタンで停止してください。

3

[**取り込み**] タブをクリックして、音楽 CD 収録曲一覧を表示する。

- バージョン 9 では [CD から録音] をクリックします。

4

取り込みたい曲のチェックボックスをオンにする

- 自動的にすべての曲が選択された状態（チェックボックスがオンの状態）になりますので、最上段（1 曲目の上）にあるチェックボックスをクリックし、すべての曲の選択を解除（オフの状態）してから、取り込みたい曲を選択（チェックボックスをオン）してください。
- すべての曲を取り込みたい場合は、すべての曲が選択された状態のまま、手順 5 に進んでください。

5

[**音楽の取り込み**] をクリックする

取り込みが始まります。選択したすべての曲のリストに [取り込み済み] と表示されたら取り込み完了です。

- バージョン 9 では [音楽の録音] をクリックします。[ライブラリに録音済み] と表示されたら取り込み完了です。

ワンポイント

- Windows Media Player で初めて音楽を取り込むときは、「録音した音楽にコピー防止を追加する / しない」の選択など、いくつかのオプションが表示されます。表示される画面の説明をよくお読みになり、各オプションの設定を行ってください。
- 取り込んだオーディオファイルは、初期設定では［マイドキュメント］の［マイミュージック（My Music）］フォルダにアーティストまたはグループ名のサブフォルダが自動作成され、その中に保存されます。これらはタスクバーの［メディアライブラリ］をクリックすると表示されます。音楽ファイルの保存先フォルダは、［ツール］メニューの［オプション］で変更できます（インターネットに接続されていない場合は「不明なアーティスト」、「不明なアルバム」などになります）。
- 音楽 CD をパソコンのドライブに入れたとき、右の図のような画面が表示された場合は、［CD から音楽を取り込みます /Windows Media Player 使用］をマウスで選ぶと、自動的に音楽の取り込みが開始されます。

  この場合、音楽CDの全曲が取り込まれます。

PC活用術 パソコンから本体にファイルを転送しよう 1 〜パソコンとの接続のしかた

Windows Media Player（P.78）やインターネットなどを使ってパソコンに取り込んだオーディオファイル（WMA/MP3 形式）は、Windows Media Player を利用して本体内蔵メモリに転送することで、X-mate で再生することができます。

パソコンからファイルを転送するには、次の３ステップの操作を行います。

1：パソコンに USB 接続する
2：ファイルを転送する（P.85）
3：パソコンから取り外す（P.89）

ここでは、ステップ 1 の「パソコンとの接続のしかた」について説明します。ステップ 2、3 については、各参照ページをご覧ください。

注意

- **ご利用のパソコンに搭載されているOSがWindows98SE/Meのときは、本製品をパソコンに接続する前にドライバソフトウェアのインストールが必要となります（P.25）。**
- Windows2000/XP ではじめてお使いになるときには、本製品は USB マスストレージクラス対応（P.99）のため、パソコンに接続すると自動的に認識され、ドライバソフトウェアがインストールされます。

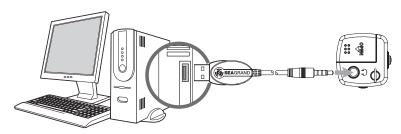
1

USBイヤホンケーブルの**USBコネクタ**を取り出す

USB イヤホンケーブルの先端を図のように回転させて USB コネクタを取り出します（P.19）。

2

パソコンの USB ポートと接続する

USB コネクタをパソコンの USB ポートに接続してください。

- しっかりと奥まで挿し込んでください。USB 端子には向きがありますのでご注意ください。
- 付属の USB 延長ケーブルを使うと便利です。
- パソコンと接続すると、自動的に電源がオンとなります。

3

パソコンとの接続を確認する

パソコンが本体を認識するとハードウェアの追加画面が表示され、Windows 画面右下にあるタスクトレイにアイコンが表示されます。

本体ディスプレイに USB 接続中を表す画面が表示されます。

4

パソコンの［**マイコンピュータ**］を開く

［マイコンピュータ］を開いて、ドライブ名を確認します。本体内蔵メモリは[リムーバブルディスク（図ではドライブ：F)］と表示されます。

ワンポイント

- ドライブ名は、お使いのパソコンの環境（ハードディスクの状態や外付け周辺機器の状態）により自動的に割り当てられます。図では本体が「ドライブ：F」としてパソコンに認識されている状態を示しています。

5

本体内蔵メモリ［**リムーバブルディスク**］を開く

［リムーバブルディスク］ドライブをマウスでダブルクリックすると、本体内蔵メモリのルートディレクトリ（最上位階層）が表示されます。

用語

- **「ルート（root）ディレクトリ」とは**、内蔵メモリそのもののことであり、「親フォルダ」と考えることができます。

初期状態では、ルートディレクトリには、以下の３つのフォルダがあることを確認してください。

［VOICE］フォルダ

ボイスレコーディングしたファイルを自動的に保存します（P.56）。

［LINE］フォルダ

ダイレクトレコーディングしたファイルを自動的に保存します（P.60）。

［FM］フォルダ

FM 録音したファイルを自動的に保存します（P.74）。

6

ステップ2『ファイルを転送する』

「パソコンから本体にファイルを転送しよう 2 ～ファイルの転送のしかた」（P.85）の手順2にお進みください。

ワンポイント

- パソコンとUSB接続をしている間は、本体の操作はできません。
- 本体をパソコンから取り外す際の詳細な手順、注意事項については「パソコンから本体にファイルを転送しよう 3 ～パソコンからの取り外しかた」（P.89）をご覧ください。

PC活用術 パソコンから本体にファイルを転送しよう 2 ～ファイルの転送のしかた

Windows Media Player やインターネットなどを使ってパソコンに取り込んだオーディオファイル（WMA/MP3 形式）は、Windows Media Player を利用して本体内蔵メモリに転送することで、X-mate で再生することができます。

パソコンからファイルを転送するには、次の３ステップの操作を行います。

1：パソコンに USB 接続する（P.81）
2：ファイルを転送する
3：パソコンから取り外す（P.89）

ここでは、ステップ 2 のファイルの転送のしかたを簡単に説明します。ステップ 1、3 については、各参照ページをご覧ください。

用語

- **Windows Media Player とは、**Windows に標準装備されているマルチメディアコンテンツ再生ソフトウェアで、音声や動画の再生が楽しめます。Microsoft 社が無償で配布しており、最新はバージョン 10 です（2005 年 10 月現在 / ただしバージョン 10 は Windows XP のみで使用可能）。

注意

- Windows Media Player はバージョン 9 以降をご使用ください。本書はバージョン 10 の画面で説明しています。バージョン 9 をお使いの方は、手順説明内のバージョン 9 用表記をご参考ください。
- Windows Media Player の詳細な使い方は、同アプリケーションの［ヘルプ］をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。

1

本体をパソコンに USB 接続する

付属 USB イヤホンケーブル（P.19）を使って、本体をパソコンの USB ポートに接続します。パソコンとの接続のしかたは、「パソコンから本体にファイルを転送しよう 1 ～パソコンとの接続のしかた」（P.81）をご覧ください。

2

Windows Media Player を起動する

Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［Windows Media Player］を選択します。

3

［**同期**］タブをクリックし、転送したい再生リストを選ぶ

左エリアの［再生リスト］のドロップダウンリストで、転送する再生リスト (「音楽 CD をパソコンに取り込もう」(P.78) でパソコンに取り込んだ音楽 CD のタイトル) を選び、オーディオファイル一覧を表示します。

- **バージョン 9 では、［デバイスへ転送］をクリックして、［ 転送する項目ウィンドウ ］のドロップダウンリストで、転送する再生リスト、区分、または項目を選びます。［すべての音楽］を選ぶと、パソコンに取り込まれているすべてのオーディオファイルを表示できます。**

4

転送したい曲のチェックボックスをオンにする

5

本体を転送先に選ぶ

右エリアのドロップダウンリストで、本体のドライブを選びます。X-mate がどのドライブに割り当てられているかは、パソコンの［マイコンピュータ］を開いて確認してください（P.83）。

● バージョン 9 では、［デバイス上の項目］ウィンドウのドロップダウンリストで、本体を選びます。

6

［**同期の開始**］をクリックして転送する

ファイルの転送が始まります。

リストに［デバイスへ同期済み］と表示されたら転送完了です。

● バージョン 9 では［転送］をクリックします。［完了］と表示されたら転送完了です。

注意

- Windows のエクスプローラでオーディオファイルを本体内蔵メモリに転送すると、以下の場合は本体でオーディオファイルを再生できません。
  1：ダウンロード購入した DRM 情報が有効なオーディオファイルの場合（P.98）
  2：音楽 CD からパソコンに録音したときに著作権保護機能が働いたとき（P.98）
  このような場合は、Windows Media Player の［同期］を利用してオーディオファイルを転送してください。
- 著作権保護機能については、「DRM（デジタル著作権管理機能）」（P.98）をご覧ください。
- オーディオファイルが持っている DRM（デジタル著作権管理）情報の内容によっては、本体に転送ができなかったり、転送しても再生できないことがあります。
- 音楽 CD を入れたパソコンの CD/DVD ドライブからファイルを本体内蔵メモリに直接コピーしても、本体では再生できません。必ず一度 Windows Media Player を使って音楽 CD をパソコンに取り込んでから、本体内蔵メモリにオーディオファイルを転送してください。Windows Media Player を使って音楽 CD をパソコンに取り込む方法は、「音楽 CD をパソコンに取り込もう」（P.78）をご覧ください。
- 本体内蔵メモリに保存されているファイルと同じ名前のファイルを転送すると、既存ファイルは上書きされます。
- Windows Media Player バージョン 10 で、[同期の設定]が表示された場合は[同期を手動で行う］を選んでください。
- 本体のパソコンへの接続および取り外しの詳細な手順、注意事項については「パソコンから本体にファイルを転送しよう 1 ～パソコンとの接続のしかた」（P.81）および「パソコンから本体にファイルを転送しよう 3 ～パソコンからの取り外しかた」（P.89）をご覧ください。
- ファイルの転送中は、本体をパソコンから取り外さないでください。

ワンポイント

- ドライブ名は、お使いのパソコンの環境（ハードディスクの状態や外付け周辺機器の状態）により自動的に割り当てられます。ここでは本体内蔵メモリが「ドライブ：F」としてパソコンに認識されている状態を示しています。
- Windows Media Player を使ってファイルを転送した際に、自動的に [WMPInfo.xml] というファイルが本体メモリに作成されますが、操作上の問題ありません。
- Windows のエクスプローラを使ってファイルの転送やバックアップができます。

用語

- DRM（デジタル著作権管理）情報とは？（P.98）

PC活用術 パソコンから本体にファイルを転送しよう 3 ～パソコンからの取り外しかた

パソコンの電源が入っている状態で、本体をパソコンから取り外すときは、以下の手順で取り外してください。パソコンの電源が切れているときは、以下の手順は不要です。

パソコンからファイルを転送するには、次の３ステップの操作を行います。

1：パソコンに USB 接続する（P.81）
2：ファイルを転送する（P.85）
3：パソコンから取り外す

ここでは、ステップ 3 の「パソコンからの取り外しかた」を説明します。ステップ 1、2 については、各参照ページをご覧ください。

注意

- 以下の手順をふまずに本体をパソコンから取り外すと、本体およびパソコンに不具合が発生する場合があります。特にファイル転送中などに強制的に取り外すとファイルの損失や故障の原因となります。必ず、以下の手順で取り外してください。
- ドライブ名は、お使いのパソコンの環境（ハードディスクの状態や外付け周辺機器の状態）により自動的に割り当てられます。図では本体が「ドライブ：F」としてパソコンに認識されている状態を示しています。
- ドライブ名は、パソコンの［マイコンピュータ］で確認できます。(P. 83)
- Windows98SE 等では［ハードウェアの安全な取り外し］が表示されない場合があります。その場合には、ファイルの転送などが行われていない事を確認の上、本体をパソコンから取り外してください。

1

Windows 画面右下にあるタスクトレイの［**ハードウェアの安全な取り外し**］アイコンをクリックする

ハードウェアの安全な取り外し
6:00

準備 / 再生／録音 / FMラジオ / パソコン活用 / 応用編 / 困った時は / 付録／索引

2

ハードウェア一覧から本体を選ぶ

USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ (F:) を安全に取り外します

パソコンに USB 接続されている機器の一覧が表示されるので、本体（リムーバブルディスク）を選びます。

ワンポイント

- [ハードウェアの安全な取り外し] ウィンドウが表示されたときは、本体 (USB 大記憶装置デバイス) を選んで [停止] をクリックします。[ハードウェアデバイスの停止] ウィンドウが表示されたら [OK] をクリックします。
- 「デバイス ' 汎用ボリューム ' を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。] とエラーメッセージが表示されたら、しばらく時間をおいてから、再度手順 1 の操作を行ってください。

3

本体を取り外す

安全な取り外し処理が終わると「ハードウェアの取り外し」が表示されます。

パソコンでこの画面を確認したら、本体をパソコンから取り外します。

ディスプレイにメイン画面が表示されたら、通常操作が行えるようになります。

PC活用術 ファイルをパソコンにバックアップしよう

X-mate で録音（ボイス / ダイレクト /FM）したファイルは、USB 接続したパソコンにバックアップ（複製保存）することができます。

ファイルをバックアップしておくことで、本製品の故障などの万が一の場合でも、貴重なファイルの損失を防ぐことができます。また、本体内蔵メモリの空き容量が少なくなった場合に、ファイルをバックアップして本体内蔵メモリからファイルを削除することで、本体内蔵メモリの容量を有効に活用することができます。

ここでは、Windows のエクスプローラを使って本体内蔵メモリからパソコンにファイルをバックアップする方法を簡単に説明します。

注意

● Windows のエクスプローラを使ったファイルの転送方法の詳細については、ご利用されているパソコン、OS の取扱説明書をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。

1

本体をパソコンに USB 接続する

付属 USB イヤホンケーブル（P.19）を使って、本体をパソコンの USB ポートに接続します。パソコンとの接続のしかたは、「パソコンから本体にファイルを転送しよう 1 ～パソコンとの接続のしかた」(P.81) をご覧ください。

2

Windows の**エクスプローラ**を起動する

マウスをWindows画面の左下にある[スタート]の位置に合わせ、右クリックをします。メニューが表示されるので、[エクスプローラ] を選ぶと、ファイル操作が行えるエクスプローラが起動します。

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

3

バックアップしたいファイルを［**コピー**］する

エクスプローラウィンドウ左側の［フォルダ］エリアから、本体［リムーバブルディスク］を選びます。

エクスプローラウィンドウ右側エリアに、本体内蔵メモリに保存されているファイル/フォルダ一覧が表示されるので、マウスを使ってパソコンにバックアップしたいファイル/フォルダを選びます。

ファイル / フォルダを選んだ状態で右クリックしてメニューを表示させ、［コピー］を選ぶと、パソコンのメモリに一時的にファイル / フォルダがコピーされます。

ワンポイント

- ファイルを選んでマウスを１回クリックすると、選んだファイル / フォルダが反転表示されます。複数のファイルを一度に選択したい場合は、［Ctrl］キーを押しながらコピーしたいファイルを続けてクリックしていきます。

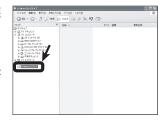
ヒント

- **ファイル / フォルダの削除のしかた**：
  ファイル / フォルダを選んだ状態で右クリックをしてメニューを表示し、［削除］を選ぶと、本体内蔵メモリ内のファイル / フォルダを削除できます。

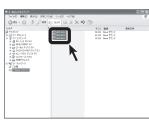
4

バックアップ先（複製保存先）を選択する

エクスプローラウィンドウ左側の［フォルダ］の［マイコンピュータ］から、コピーしたファイル / フォルダのバックアップ先（複製保存先）を選びます。

5

コピーしたファイルを［**貼り付け**］する

エクスプローラウィンドウ右側のエリア内で右クリックしてメニューを表示させ、［貼り付け］を選ぶと、手順 3 でコピーしたファイルが手順４で指定したフォルダに貼り付け（ペースト）られます。

貼り付けたファイルがエクスプローラ上で表示されたらバックアップの完了です。

注意

- 本体のパソコンへの接続および取り外しの詳細な手順、注意事項については「パソコンから本体にファイルを転送しよう 1 ～パソコンとの接続のしかた」（P. 81）と「パソコンから本体にファイルを転送しよう 3 ～パソコンからの取り外しかた」（P. 89）をご覧ください。
- ファイルの転送中は、本体をパソコンから取り外さないでください。故障の原因となります。
- 一度削除したファイル/フォルダは元に戻せないので充分に注意して操作してください。貴重なファイルなどは、バックアップを取ることをお薦めいたします。バックアップについては「ファイルをパソコンにバックアップしよう」（P. 91）をご覧ください。

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

PC活用術 本体をモバイルメモリとして利用しよう

X-mate は、大容量のメモリを内蔵しており、デジタルカメラなどで撮影した画像ファイルやテキストファイルなど、オーディオファイル以外の各種ファイルも本体に保存することができ、手軽に持ち運べるモバイルメモリとして活用することができます。

ここでは、Windows のエクスプローラを使ってパソコンから本体内蔵メモリにファイルを転送する方法を簡単に説明します。

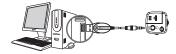
注意

- Windows のエクスプローラを使ったファイルの転送方法の詳細については、ご利用されているパソコン、OS の取扱説明書をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。
- Windows のエクスプローラでオーディオファイルを本体内蔵メモリに転送すると、以下の場合は本体でオーディオファイルを再生できません。
  1：ダウンロード購入した DRM 情報が有効なオーディオファイルの場合（P.98）
  2:音楽 CD からパソコンに録音したときに著作権保護機能が働いたとき（P.98）
  このような場合は、Windows Media Player の［同期］を利用してオーディオファイルを転送してください。
- 著作権保護機能については、「DRM（デジタル著作権管理機能）」（P.98）をご覧ください。
- 音楽 CD を入れたパソコンの CD/DVD ドライブからファイルを本体内蔵メモリに直接コピーしても、本体では再生できません。必ず一度 Windows Media Player を使って音楽 CD をパソコンに取り込んでから、本体内蔵メモリにオーディオファイルを転送してください。Windows Media Player を使って音楽 CD をパソコンに取り込む方法は、「音楽 CD をパソコンに取り込もう」（P.78）をご覧ください。

1

本体をパソコンに USB 接続する

付属 USB イヤホンケーブル（P.19）を使って、本体をパソコンの USB ポートに接続します。パソコンとの接続のしかたは、「パソコンから本体にファイルを転送しよう 1 ～パソコンとの接続のしかた」（P.81）をご覧ください。

2

Windows の**エクスプローラ**を起動する

マウスをWindows画面の左下にある[スタート]の位置に合わせ、右クリックをします。メニューが表示されるので、[エクスプローラ]を選ぶと、ファイル操作が行えるエクスプローラが起動します。

3

本体に転送したいファイルを［**コピー**］する

エクスプローラウィンドウ左側の［フォルダ］エリアから、本体に転送したいファイルが保存されているパソコンのハードディスクドライブを選びます。

エクスプローラウィンドウ右側エリアに、選んだハードディスクドライブに保存されているファイル / フォルダー覧が表示されるので、マウスを使って本体に転送したいファイル/フォルダを選びます。

ファイル/フォルダを選んだ状態で右クリックしてメニューを表示させ、[コピー]を選ぶと、パソコンのメモリに一時的にコピーされます。

ワンポイント

- ファイルを選んでマウスを１回クリックすると、選んだファイル / フォルダが反転表示されます。複数のファイルを一度に選択したい場合は、[Ctrl] キーを押しながらコピーしたいファイルを続けてクリックしていきます。

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

4

ファイルの転送先（保存先）を選択する

エクスプローラウィンドウ左側の［フォルダ］エリアの［マイコンピュータ］で本体［リムーバブルディスク］を選びます。

本体内蔵メモリに保存されているファイル／フォルダー覧が表示されるので、手順３でコピーしたファイル/フォルダの転送先を選択します。

ヒント

- **フォルダの作りかた：**
  本体［リムーバブルディスク］をマウスで選び、右側のファイル／フォルダー覧のエリア内で右クリックをしてメニューを表示し、［新規作成］－［フォルダ］を選ぶと、本体内蔵メモリ内に自由にフォルダを作ることができます。

5

コピーしたファイルを［ **貼り付け** ］する

エクスプローラ右側のエリア内で右クリックしてメニューを表示させ、［貼り付け］を選ぶと、手順３でコピーしたファイルが手順４で指定したフォルダに貼り付け（ペースト）られます。

貼り付けたファイルがエクスプローラ上で表示されたらファイルの転送の完了です。

注意

- 本体のパソコンへの接続および取り外しの詳細な手順、注意事項については「パソコンから本体にファイルを転送しよう 1 ～パソコンとの接続のしかた」（P.81）と「パソコンから本体にファイルを転送しよう 3 ～パソコンからの取り外しかた」（P.89）をご覧ください。
- ファイルの転送中は、本体をパソコンから取り外さないでください。

ワンポイント

- マウスを使ってファイルをドラッグ＆ドロップしても、ファイルを転送することができます。詳細については、ご利用されているパソコン、OS の取扱説明書をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

用語集

ファイル形式

オーディオファイルには、データの形式によっていくつかの種類があり、ファイル形式として分類されます。ここでは、本製品で再生できる WMA/MP3/WAV（※注）について説明します。

● WMA（Windows Media Audio）

Microsoft 社が開発した音声圧縮フォーマットです。Windows に標準装備されている Windows Media Player で音楽 CD を WMA ファイルにできます。

● MP3（MPEG Audio Layer-3）

オーディオ CD 並みの音質で、データ量を約 10 分の 1 に圧縮できる音声圧縮フォーマットです。

● WAV（Windows Wave）

Windows で標準的に使われている音声ファイルフォーマットです。データが圧縮されていないので高音質ですが、データ量は大きくなります。

※注：本製品では、本製品で録音した WAV ファイルのみ再生に対応しています。

ID3 タグ

オーディオファイルに、曲名 / アーティスト名 / アルバム名 / ジャンルなどの情報を加えて、再生時にプレーヤ上に表示するための規格です。ID3 バージョン 2 からは、歌詞などの情報もオーディオファイルに持たせることができます。

本製品では、曲名情報を持っている場合に ID3 タグを認識して表示することができます。

DRM（デジタル著作権管理機能）

デジタルデータの著作権を保護する技術で、音楽配信サイトなどからダウンロード購入した WMA などのオーディオファイルは、DRM 情報が含まれています。

通常、DRM で保護されているオーディオファイルはダウンロードしたパソコンでのみ再生でき、他のパソコンやプレイヤーにコピーや転送をしても再生できませんが、本製品は WMA ファイルの DRM に正規に対応しており、Windows Media Player を使ってファイルを転送した場合に限り、オーディオファイルを再生できます。

ワンポイント

● ただし、DRM 情報に「ポータ ブルプレーヤーへの転送不可情報」や、「転送可能回数制限」などが含まれているときは、ファイルの転送や再生ができない場合もあります。このように、本製品は必ずしもすべての WMA ファイルの再生を保証するものではありません。

● Windows Media Player 以外の方法(エクスプローラを使ったファイルコピーなど）でファイルを転送すると、再生制限がかかり本製品では再生できません。ファイルの転送には Windows Media Player をお使いください。

Windows Media Player

Windows に標準装備されているマルチメディアコンテンツ再生ソフトウェアで、音声や動画の再生が楽しめます。Microsoft 社が無償で配布しており、最新はバージョン 10 です。

● 2005 年 10 月現在 / ただしバージョン 10 は Windows XP のみで使用可能。

USB マスストレージクラス

USB ポートにハードディスクなどの外部記憶装置を接続するための規格です。この規格に対応した機器は、パソコンとの間でデータ（ファイル）のバックアップ / コピーが可能となるだけでなく、エクスプローラなどのアプリケーションを利用してデータを読み出せます。また、USB マスストレージクラス対応機器を WindowsMe/2000/XP ではじめて使う場合に、パソコンに USB 接続するだけで自動的に認識され、ドライバーソフトウェアがインストールされます。

● 本製品を Windows98SE で使いになる場合、および一部の Windows Me でお使いになる場合のみ、ドライバのインストールが必要です

さらに進んだ使い方（応用編）

この章では、曲の再生や録音に関する便利な機能や各種設定方法など、さらに進んだ本製品の使い方について説明しています。必要に応じてお読みください。
曲の再生や録音、FM ラジオの聴きかたなどの基本的な操作については「すぐに使おう (基本操作編)」（P.27）をご覧ください。

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

メニュー画面について

メニュー画面では、再生や録音方法をはじめ本体の操作に関するさまざまな設定ができます。

メニュー画面は、メイン画面でMを短く押して表示します。◄M►を|◄◄/►►|に動かして設定したいメニューを選び、Mを短く押すと各設定メニューの内容が表示されます。

注意

- Mを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

以下は、メイン画面で設定できるメニュー一覧です。それぞれのメニューの内容や具体的な設定方法については、各参照ページをご覧ください。

メニュー画面一覧

[音楽]：音楽の再生を行うメイン画面にします（P.31）

[録音]：ボイス / ダイレクトレコーディングを開始します（P.56,60）

[FM ラジオ]：FM ラジオ画面にします（P.65）

[設定]：以下の設定メニューを表示します

- **[イコライザ]**：再生する音質を設定します（P.104）
- **[リピート]**：再生方式を設定します（P.106）
- **[自動オフ]**：自動で電源をオフにする時間を設定します（P.108）
- **[録音設定]**：録音に関する設定をします（P.56,60,74）
  - **[ソース]**：録音音源（マイク / ライン）を設定します（P.53）
  - **[録音形式]**：録音ファイル形式を設定します（P.110）

[音質]：録音音質を設定します（P.112）

[オートシンク]：オートシンク録音の設定をします（P.115）

[戻る]：設定メニュー一覧に戻ります

● **[FM ラジオ設定]**：FM ラジオの周波数帯域を設定します（P.122）

● **[歌詞表示]**：歌詞ファイルの表示を設定します（P.118）

● **[オートバック]**：自動でメイン画面に戻す時間を設定します（P.120）

● **[戻る]**：メニュー画面に戻ります

[フォルダ]：曲を選んだり、削除、プレイリスト登録をします (P.37,41,45)

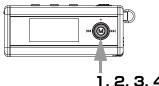
[情報]：本体のバージョンや内蔵メモリの情報を表示します（P.129）

[言語設定]：ディスプレイに表示する言語を設定します（P.130）

[戻る]：メイン画面に戻ります

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

好みの音質に調整しよう（イコライザ）

5 つの音楽ジャンルに最適化されたイコライザが用意されており、好みの音質で音楽を楽しめます。

1 メイン画面でⓂを短く押してメニュー画面にする

- Ⓜを押す時間が長いとメニュー画面になりません。
- FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、Ⓜを数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

2 Ⓜを⏮/⏭に動かして［設定］を選び、Ⓜを短く押す

設定メニュー一覧が表示されます。

- Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

3 Ⓜを⏮/⏭に動かして［イコライザ］を選び、Ⓜを短く押す

イコライザ設定メニューが表示されます。

4 Ⓜを⏮/⏭に動かしてイコライザのタイプを選ぶ

イコライザのタイプは、次の５種類です。

NOR ノーマル：
通常の音質です。

ROCK ロック：
ロックに適した音質です。

JAZZ ジャズ：
ジャズに適した音質です。

CLAS クラシック：
クラシックに適した音質です。

POP ポップ：
ポップスに適した音質です。

戻る：
操作をキャンセルし設定メニュー一覧に戻ります。

5 Ⓜを数秒間押したままにする

イコライザのタイプが確定し、メイン画面に戻ります。ディスプレイに選択した再生方法マークが表示されます。

003/009 A-B
00:00:25
yesterday.mp3

- このほかのメニューの設定も引き続き行いたいときは、Ⓜを短く押すと、イコライザのタイプを確定してメニュー一覧に戻ります。

ワンポイント

- 通常の音質で再生するときはノーマルを選んでください。
- 設定した音質によって音量が大きくなったように感じる場合があります。

各種リピート / シャッフル再生をしよう

通常の再生方法のほかに、1曲 / 全曲リピート再生やシャッフル再生が行えます。また、あらかじめ好みの曲を登録しておいたプレイリストを再生することもできます。

ヒント

- プレイリストの再生のしかたについては「プレイリストを再生しよう」(P.50) をご覧ください。
- プレイリストへの登録のしかたについては「好みの曲をプレイリストに登録（消去）しよう（フォルダ機能 3)」(P.45) をご覧ください。

1 メイン画面でⓂを短く押してメニュー画面にする

音楽

- Ⓜを押す時間が長いとメニュー画面になりません。
- FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、Ⓜを数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

2 Ⓜを◀◀/▶▶に動かして［設定］を選び、

Ⓜを短く押す

設定

設定メニュー一覧が表示されます。

- Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

3 Ⓜを◀◀/▶▶に動かして［リピート］を選び、Ⓜを短く押す

リピート設定メニューが表示されます。

4 Ⓜを⏮/⏭に動かして再生方式を選ぶ

再生方法は、次の 6 種類です。

ノーマル

ノーマル：
通常の再生方式で、曲順に再生します。全曲再生が終わると、再生が停止します。

1 曲リピート：
1 曲を繰り返し再生します。

全曲リピート：
全曲を繰り返し再生します。

シャッフル：
曲順をランダムに入れ替えて再生します。

シャッフルリピート：
曲順をランダムに入れ替えてリピート再生します。

プレイリスト（P.50）：
プレイリストに登録した曲を再生します。

戻る：
操作をキャンセルし設定メニュー一覧に戻ります。

5 Ⓜを数秒間押したままにする

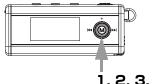
再生方法が確定し、メイン画面に戻ります。ディスプレイに選択した再生方法マークが表示されます。

- このほかのメニューの設定も引き続き行いたいときは、Ⓜを短く押すと、再生方法を確定してメニュー一覧に戻ります。
- ノーマルを選んだ場合は、再生方法マークは表示されません。

003/009 A-B
00:00:25
yesterday.mp3

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

自動電源オフ時間を設定しよう

一定時間何も操作されなかったときに、自動的に電源がオフになる時間を設定できます。

1, 2, 3, 4, 5

1 メイン画面で M を短く押してメニュー画面にする

- M を押す時間が長いとメニュー画面になりません。
- FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、M を数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

2 M を ⏮/⏭ に動かして［設定］を選び、M を短く押す

設定メニュー一覧が表示されます。

- M を押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

3 M を ⏮/⏭ に動かして［自動オフ］を選び、M を短く押す

自動オフ設定メニューが表示されます。

4 M を ⏮/⏭ に動かして設定時間を選ぶ

設定できる時間は、次の 5 種類です。

［無効］：自動電源オフ機能を無効にします。

［1 分 /2 分 /5 分 /10 分］：自動的に電源がオフになる時間を設定します。

5 Ⓜを数秒間押したままにする

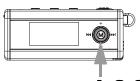
自動電源オフ時間が確定され、メイン画面に戻ります。

● このほかのメニューの設定も引き続き行いたいときは、Ⓜを短く押すと、自動電源オフ時間を確定してメニュー一覧に戻ります。

ワンポイント

● 次のような状態の場合は、一定時間ボタン操作を行わなくても電源はオフになりません。
・曲の再生中または録音中
・FM ラジオの受信中
・メニューで［情報］を表示している場合（P.129）

録音時のオーディオファイル形式を設定しよう

本体で録音（ボイス / ダイレクト /FM）して内蔵メモリに保存されるオーディオファイルの形式を設定します。本製品では、［WAV（P.98)］または［MP3（P.98)］のいずれかの形式で録音できます。

1 メイン画面でⓂを短く押してメニュー画面にする

- Ⓜを押す時間が長いとメニュー画面になりません。
- FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、Ⓜを数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

2 ◀Ⓜ▶を⏮/⏭に動かして［設定］を選び、Ⓜを短く押す

設定メニュー一覧が表示されます。

- Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

3 ◀Ⓜ▶を⏮/⏭に動かして［録音設定］を選び、Ⓜを短く押す

録音設定メニュー一覧が表示されます。

4 ◀Ⓜ▶を⏮/⏭に動かして［録音形式］を選び、Ⓜを短く押す

録音形式設定メニューが表示されます。

5 ◀Ⓜ▶を⏮/⏭に動かして［WAV］または［MP3］を選ぶ

［WAV］：WAV 形式で録音します（P.98）。
［MP3］：MP3 形式で録音します（P.98）。

6 Ⓜを数秒間押したままにする

003/009
00:00:00
yesterday.mp3

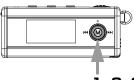
ファイル形式を確定し、メイン画面に戻ります。

- このほかの録音設定メニューの設定も引き続き行いたいときは、Ⓜを短く押すと、録音形式を確定して録音設定メニュー一覧に戻ります。

ヒント

- 録音のしかたについては、以下をご覧ください。
「内蔵マイクで録音しよう（ボイス録音）」（P. 56）
「オーディオ機器と接続して録音しよう（ダイレクトレコーディング）」（P. 60）
「FM ラジオを録音しよう（FM レコーディング）」（P. 74）

録音時の音質を設定しよう

本体で録音（ボイス / ダイレクト /FM）して内蔵メモリに保存されるオーディオファイルの音質を設定します。音質は、サンプリングレート（音の周波数帯域の広さ）とビットレート（1 秒間に転送できるデジタル信号の量）によって決まります。一般的にこれらの数値が高いほど高音質となりますが、データの量（ファイルサイズ）は大きくなります。本製品では、あらかじめ用意された［高］、［標準］、［低］の 3 タイプの中から選択できます。

1, 2, 3, 4, 5, 6

1　メイン画面でⓂを短く押してメニュー画面にする

- Ⓜを押す時間が長いとメニュー画面になりません。
- FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、Ⓜを数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

2　Ⓜを⏮/⏭に動かして［設定］を選び、Ⓜを短く押す

設定メニュー一覧が表示されます。

- Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

3　Ⓜを⏮/⏭に動かして［録音設定］を選び、Ⓜを短く押す

録音設定メニューが表示されます。

4 を |◀◀ / ▶▶| に動かして［音質］を選び、Ⓜを短く押す

音質設定メニューが表示されます。

5 を |◀◀ / ▶▶| に動かして音質を選ぶ

録音の音質は、次の 3 種類です。
なお、各音質のサンプリングレート / ビットレートの詳細は次項の［ワンポイント］をご覧ください。

高　高（高音質）：
もっとも高い音質で 録音を行います。データ量（ファイルサイズ）が大きくなりますので、録音前に本体内蔵メモリの空き容量（録音可能時間）をご確認ください。

標準　標準（標準音質）：
標準的な音質で録音します。

低　低（長時間）：
データ量（ファイルサイズ）を小さくして、少ない本体内蔵メモリの 空き容量で長時間の録音が可能です。

6 Ⓜを数秒間押したままにする

録音の音質を確定し、メイン画面に戻ります。

- このほかの録音設定メニューの設定も引き続き行いたいときは、Ⓜを短く押すと、音質を確定して録音設定メニュー一覧に戻ります。

ヒント

- 録音可能な残り時間は、録音中にディスプレイ画面に表示されます。
- 本体内蔵メモリの空き容量は、メニューの［情報］で確認できます（P.129）。
- 録音のしかたについては、以下をご覧ください。
  「内蔵マイクで録音しよう（ボイス録音）」（P.56）
  「オーディオ機器と接続して録音しよう（ダイレクトレコーディング）」（P.60）
  「FM ラジオを録音しよう（FM レコーディング）」（P.74）

ワンポイント

録音方法とファイル形式による音質設定の詳細

[F]：サンプリングレート　[B]：ビットレート

● ボイスレコーディング／ MP3 形式

高　[B]192kbps ／モノラル
標準　[B]128kbps ／モノラル
低　[B] 64kbps ／モノラル

● ボイスレコーディング／ WAV 形式

高　[F]22.05kHz　[B]88.2kbps ／モノラル
標準　[F]16.00kHz　[B]64kbps　／モノラル
低　[F] 8.00kHz　[B]32kbps　／モノラル

● ダイレクトレコーディング／ MP3 形式

高　[B]192kbps ／ステレオ
標準　[B]128kbps ／ステレオ
低　[B] 64kbps ／ステレオ

● ダイレクトレコーディング／ WAV 形式

高　[F]22.05kHz [B]176.4kbps ／ステレオ
標準　[F]16.00kHz [B]128kbps　／ステレオ
低　[F] 8.00kHz [B] 64kbps　／ステレオ

● FM 録音／ MP3 形式

高　[B]192kbps ／ステレオ
標準　[B]128kbps ／ステレオ
低　[B] 64kbps ／ステレオ

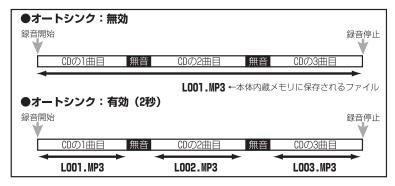
● FM 録音／ WAV 形式

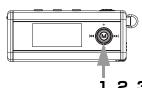
高　[F]22.05kHz [B]176.4kbps ／ステレオ
標準　[F]16.00kHz [B]128kbps　／ステレオ
低　[F] 8.00kHz [B] 64kbps　／ステレオ

曲ごとにファイルを分割して録音しよう（オートシンク）

オートシンクは、ダイレクトレコーディング時（P.60）に無音部分で自動的に録音の開始 / 停止を行い、曲ごとにオーディオファイル（曲）を分割保存する機能です。

通常の録音方法では、録音開始から録音停止までがひとつのオーディオファイル（1曲）として本体内蔵メモリに保存されますが、オートシンク機能を使うと、音楽 CD などのように曲間に 2 秒以上の無音部分がある音源を録音した場合に、無音部分で自動的に録音の開始 / 停止を行い、一度の録音作業で曲ごとにオーディオファイルを分けることができます。

例：音楽 CD をダイレクトレコーディングする場合

注意

- オートシンク機能の設定は、ダイレクトレコーディング時（P. 60）および録音形式が MP3（P. 110）の場合のみ有効です。ボイスレコーディング時および録音形式が WAV の場合には、設定を［有効］にしておいても動作しません。

1 メイン画面で M を短く押してメニュー画面にする

- M を押す時間が長いとメニュー画面になりません。
- FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、M を数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

2 M を |◀◀/▶▶| に動かして［設定］を選び、M を短く押す

設定メニュー一覧が表示されます。

- M を押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

3 M を |◀◀/▶▶| に動かして［録音設定］を選び、M を短く押す

録音設定メニュー一覧が表示されます。

4 M を |◀◀/▶▶| に動かして［オートシンク］を選び、M を短く押す

オートシンク設定メニューが表示されます。

5 M を |◀◀/▶▶| に動かして［有効］または［無効］を選ぶ

［有効］：2 秒以上の無音部分で録音を分割します。
［無効］：通常の録音を行います。

6 Ⓜを数秒間押したままにする

オートシンクの設定を確定し、メイン画面に戻ります。

- このほかの録音設定メニューの設定も引き続き行いたいときは、Ⓜを短く押すと、オートシンクの設定を確定して録音設定メニュー一覧に戻ります。

003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

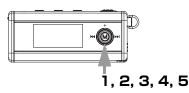
注意

- オートシンク機能は、[LINE-IN] ジャックから入力されるオーディオ信号レベルを検知して自動的にオーディオファイルを分割して保存します。そのため、録音する曲の種類やレベルによって正しく動作しない場合があります。録り直しのきかない録音の場合、必ず事前に試し録音をしてください。
- 無音検出の基準時間は2秒に固定されています。時間を変更することはできません。

ヒント

- 「オーディオ機器と接続して録音しよう　（ダイレクトレコーディング）」（P.60）

歌詞表示の設定をしよう

歌詞表示とは、Windows に標準で用意されている［メモ帳］などのテキスト編集アプリケーション（テキストエディター）を使って作成した歌詞ファイルを、曲（オーディオファイル）の再生に合わせてディスプレイ表示することができる機能です。ここでは、該当する曲が再生されたときにディスプレイに歌詞を表示するかどうかを設定します。歌詞ファイルがない場合は、歌詞機能は動作しません。

1 メイン画面でMを短く押してメニュー画面にする

- Mを押す時間が長いとメニュー画面になりません。
- FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、Mを数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

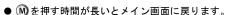
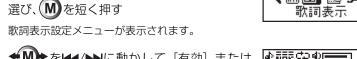
2 Mを|◀◀/▶▶|に動かして［設定］を選び、Mを短く押す

設定メニュー一覧が表示されます。

- Mを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

3 Mを|◀◀/▶▶|に動かして［歌詞表示］を選び、Mを短く押す

歌詞表示設定メニューが表示されます。

4 Mを|◀◀/▶▶|に動かして［有効］または［無効］を選ぶ

［有効］：歌詞ファイルの内容を表示します。
［無効］：歌詞ファイルの内容を表示しません。

5 Ⓜを数秒間押したままにする

♪ ▬
003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

歌詞表示の設定を確定し、メイン画面に戻ります。

- このほかのメニューの設定も引き続き行いたいときは、Ⓜを短く押すと、歌詞表示の設定を確定してメニュー一覧に戻ります。

歌詞ファイルの作りかたと保存のしかた

1：Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［アクセサリ］－［**メモ帳**］を選択し、メモ帳を起動します。

2：　歌詞を入力します。歌詞の入力方法は以下の通りです。

・**[00:00]**
→**半角数字**で歌詞表示開始時間を記載し、**半角大カッコ**で囲みます。
・**テキスト**（例：おはよう）
→指定した時間から表示される歌詞を入力します。
右図の例の場合、曲の再生開始（0 秒）から 9 秒までは、ディスプレイに「おはよう」と表示され、以下同様に 10 ～ 17 秒までは「こんにちは」、18 ～ 24 秒までは「こんばんは」、そして 25 秒～曲の終了までは「おやすみ」と表示されます。

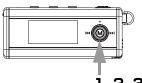
- 一度に表示できる文字数は、全角 16 文字（半角 32 文字）までです。
- 半角カタカナは使用できません。
- 歌詞ファイルは曲ごとに必要となります。
- 歌詞を半角英数文字および半角記号で 17 文字以上連続（スペースなし）して記述すると、その歌詞はディスプレイに表示されません。

3：　歌詞表示させせたい曲と**同じファイル名**で、拡張子を「**.lrc**」にして保存します。オーディオファイル「**AAA.wma**」に歌詞表示を行いたい場合は「**AAA.lrc**」と名前を付けます。

4：　パソコンと USB 接続し、曲（AAA.wma）と**同じフォルダに**歌詞ファイル「AAA.lrc」を保存します。

- パソコンから本体へ歌詞ファイルをコピー / 貼り付けするしかたは「本体をモバイルメモリとして利用しよう」（P. 94）をご覧ください。
- 本体のパソコンへの接続および取り外しの詳細な手順、注意事項については「パソコンとの接続のしかた」（P. 81）と「パソコンからの取り外しかた」（P. 89）をご覧ください。

オートバックの設定をしよう

オートバック機能を有効にすると、メニュー画面の状態で数秒間何も操作しなかった場合に、自動的にメイン画面に戻すことができます。

1 メイン画面でⓂを短く押してメニュー画面にする

- Ⓜを押す時間が長いとメニュー画面になりません。
- FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、Ⓜを数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

2 Ⓜを⏮/⏭に動かして［設定］を選び、Ⓜを短く押す

設定メニュー一覧が表示されます。

- Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

3 Ⓜを⏮/⏭に動かして［オートバック］を選び、Ⓜを短く押す

オートバック設定メニューが表示されます。

4 Ⓜを⏮/⏭に動かして［有効］または［無効］を選ぶ

［有効］：オートバック機能を有効にします。
［無効］：オートバック機能を無効にします。

5 Ⓜを数秒間押したままにする

003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

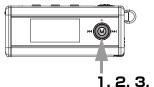
オートバックの設定を確定し、メイン画面に戻ります。

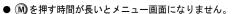
- このほかのメニューの設定も引き続き行いたいときは、Ⓜを短く押すと、オートバックの設定を確定してメニュー一覧に戻ります。

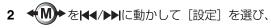
注意

- 設定を確定していない状態で、オートバック機能によりメニュー操作が中断した場合（自動的にメイン画面に戻ってしまった場合）は、その操作（設定）は無効となります。

FM ラジオの設定をしよう

FM ラジオの周波数帯域を設定します。
通常は［日本］を選択してください。

1, 2, 3, 4, 5

1 メイン画面でⓂを短く押してメニュー画面にする

- Ⓜを押す時間が長いとメニュー画面になりません。
- FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、Ⓜを数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

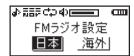
2 Ⓜを|◀◀/▶▶|に動かして［設定］を選び、Ⓜを短く押す

設定メニュー一覧が表示されます。

- Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

3 Ⓜを|◀◀/▶▶|に動かして［FM ラジオ設定］を選び、Ⓜを短く押す

FM ラジオ設定メニューが表示されます。

4 Ⓜを|◀◀/▶▶|に動かして［日本］または［海外］を選ぶ

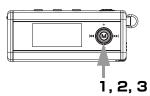
［日本］：日本の設定です。
［海外］：ヨーロッパ / アメリカの設定です。

5 Ⓜを数秒間押したままにする

FMラジオの周波数帯域を確定し、メイン画面に戻ります。

- このほかのメニューの設定も引き続き行いたいときは、Ⓜを短く押すと、FMラジオの周波数帯域を確定してメニュー一覧に戻ります。

003/009
00:00:00 ■
yesterday.mp3

FM ラジオの放送局（周波数）を手動で設定しよう

内蔵の FM チューナーは、オートスキャン（自動選局）（P.68）で放送局（周波数）を設定する以外に、手動で設定することもできます。

1 FM ラジオ画面にする

「FM ラジオを聴こう 1 ～ FM ラジオ画面にする」(P.65) の手順で FM ラジオ画面にします。

2 Ⓜを短く押してマニュアルモードにする

マニュアルモードとは、放送局（周波数）を手動で設定できる状態（モード）で、ディスプレイ左上の表示が図のようになります。

チャンネルモードとは、オートスキャン（自動選局）を行ったり、オートスキャン後にチャンネルを選択できる状態（モード）で、ディスプレイ左上の表示が図のようになります。FM ラジオ画面にした直後は、自動的にチャンネルモードになります。

Ⓜを短く押すごとに、**マニュアルモード**と**チャンネルモード**が切り替わります。

- Ⓜを押す時間が長いとメニューモードになりません。

3 Ⓜを⏮/⏭に動かして周波数を設定する

Ⓜを⏮/⏭に短く動かして周波数を 0.1MHz 単位で変更します。

Ⓜを⏮/⏭に数秒間動かしたままにするとスキャニングが始まり、電波を感知すると止まります。

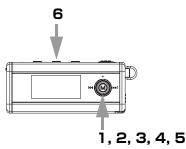
ワンポイント

- 本製品はイヤホンアンテナ方式によって電波を受信します。FM ラジオを聴くときは、必ずインナーイヤホンをイヤホンジャックに接続してください。
- 国内で FM ラジオを聴くには、FM ラジオ設定（P.122）を［日本］に設定する必要があります（お買い上げ時には［日本］に設定されています）。
- 電池の残量が少ないと雑音が発生しやすくなります。充分に残量のある電池をお使いください。
- 電車内や多くの人がいる場所で音楽をお楽しみになる際は、周囲の人の迷惑とならない音量でお聴きください。また、夜間は小さな音も遠くまで聴こえることがありますので音量には充分配慮した上でお楽しみください。

ヒント

- 自動で放送局（周波数）を設定するには（P.68）
- 手動で設定した放送局（周波数）をチャンネル番号に登録するには（P.126）

放送局を手動でチャンネル登録しよう（手動チャンネル登録）

内蔵 FM チューナーは、オートスキャン（自動選局）（P.68）で放送局（周波数）をチャンネル番号に登録する以外に、手動でチャンネル番号に登録できます。

1 FM ラジオ画面にする

「FM ラジオを聴こう 1 〜 FM ラジオ画面にする」（P.65）の手順で FM ラジオ画面にします。

2 チャンネルモードになっていることを確認する

チャンネルモードとは、オートスキャン（自動選局）を行ったり、オートスキャン後にチャンネルを選択できる状態（モード）で、ディスプレイ左上の表示が図のようになります。

FM ラジオ画面にした直後は、自動的にチャンネルモードになります。

マニュアルモードとは、放送局（周波数）を手動で設定できる状態（モード）で、ディスプレイ左上の表示が図のようになります。

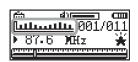
Ⓜを短く押すごとに、**チャンネルモード**と**マニュアルモード**が切り替わります。

● Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

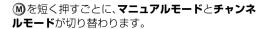
3 ◀M▶を|◀◀/▶▶|に短く動かして、登録したいチャンネル番号を選ぶ

▶▶|に短く動かすとチャンネル番号が、001,002,003…と変わり、|◀◀に短く動かすと003,002,001…と変わります。

- ディスプレイには、チャンネル番号と割り当てられている周波数が表示され、FM ラジオを受信します。
- ▶▶|に数秒間動かしたままにすると、オートスキャンが開始します。
- 放送局（周波数）がチャンネルに割り当てられていない場合は、先にオートスキャン（自動選局）を行ってください （P. 68）。

4 Mを短く押してマニュアルモードにする

Mを短く押すごとに、**マニュアルモード**と**チャンネルモード**が切り替わります。

- Mを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

5 ◀M▶を|◀◀/▶▶|に動かして周波数を設定する

◀M▶を|◀◀/▶▶|に短く動かして周波数を 0.1MHz 単位で変更します。

◀M▶を|◀◀/▶▶|に数秒間動かしたままにするとスキャニングが始まり、電波を感知すると止まります。

6 RECを短く押してチャンネル番号に登録する

手順 3 で選んだチャンネル番号に、手順 5 で設定した周波数が登録されます。複数の放送局を登録したい場合は、手順 3 ～ 6 を繰り返します。

- RECを長く押し続けると FM ラジオの録音が開始されます （P. 74）。

注意

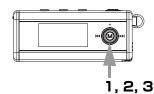
- 手順 3 で選んだチャンネル番号に、すでに別の放送局（周波数）が登録されている場合は、登録内容は消去されて手順 5 で設定した放送局（周波数）が新たに登録されます。オートスキャン（自動選局）後などに手動でチャンネル番号を登録する場合はご注意ください。
- 手動でチャンネル登録を行った後、オートスキャン（自動選局）を行うと、手動でチャンネル登録した内容は全て上書きされます。

ワンポイント

● 自動で放送局（周波数）を設定するには（P.68）
● 手動で放送局（周波数）を設定するには（P.124）

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

内蔵メモリ空き容量やバージョン情報を確認しよう

本製品のファームウェア（システムプログラム）のバージョンと、本体内蔵メモリの空き容量 / 全容量を確認できます。

1 メイン画面でⓂを短く押してメニュー画面にする

- Ⓜを押す時間が長いとメニュー画面になりません。
- FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、Ⓜを数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

2 ◀Ⓜ▶を|◀◀/▶▶|に動かして［情報］を選び、Ⓜを短く押す

情報

本製品の情報が表示されます。
上段：ファームウェアのバージョン
下段：内蔵メモリの空き容量（左）と全容量（右）

- 本体内蔵メモリの一部をファームウェア（システムプログラム）が使用するため、［全容量］は、ご利用の製品に搭載されているメモリ容量よりも少なく表示されます。また、Windows での表示とは容量が異なります。
- Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

3 Ⓜを数秒間押したままにする

メイン画面に戻ります。

- このほかのメニューの設定も引き続き行いたいときは、Ⓜを短く押すと、メニュー一覧に戻ります。

ディスプレイに表示する言語を設定しよう

メニュー項目などディスプレイに表示する言語を設定します。
通常は［日本語］を選択してください。

1 メイン画面でⓂを短く押してメニュー画面にする

- Ⓜを押す時間が長いとメニュー画面になりません。
- FM ラジオ画面またはメニュー画面が表示されているときは、Ⓜを数秒間押したままにすると、自動的にメイン画面に切り替わります。

2 ◀Ⓜ▶を⏮/⏭に動かして［言語設定］を選び、Ⓜを短く押す

言語設定メニューが表示されます。

- Ⓜを押す時間が長いとメイン画面に戻ります。

3 ◀Ⓜ▶を⏮/⏭に動かして言語を設定する

通常は［日本語］を選択してください。

4 Ⓜを数秒間押したままにする

言語設定が確定し、メイン画面に戻ります。

- このほかのメニューの設定も引き続き行いたいときは、Ⓜを短く押すと、言語設定を確定してメニュー一覧に戻ります。

ファームウェアをアップデートする

本製品はファームウェア（システムプログラム）のアップデート（更新）が可能で、ご購入後も最新の操作性と機能を入手できます。

ファームウェアがアップデートした場合には、付属のソフトウェア CD-ROM に収録されている「専用ファームウェアアップデートプログラム」をパソコンにインストールし、ご購入製品をアップデートしてください。

ファームウェアのアップデート情報およびアップデートの手順は、弊社ホームページ（P.151）にて公開いたします。アップデートの際は、弊社ホームページにて、アップデートの手順および注意事項をご確認ください。

ワンポイント

- 通常はアップデートを行う必要はございません。

使用上のヒントと
トラブルシューティング

故障かな！？と思ったらまずお読みください

この章では、本製品を使いこなすためのヒントと、陥りやすいトラブルとその原因、対処方法について説明しています。弊社サポートセンターにお問い合わせいただく前に、一度本章の内容をご確認ください。

使用上のヒント集〜このような時には

●音楽再生編

再生する曲順を並べ替えたい

本体で曲を再生するときの曲順は、ルートにあるファイル→フォルダにあるファイル→オーディオファイルの名前順（半角数字→半角アルファベット→全角数字→全角アルファベット→全角日本語 / 五十音）となります。

音楽 CD をパソコンに WMA 形式で取り込んで、それを本体に転送するときは、ファイル名の先頭に数字（01**、02**、03**、…など）をつけると音楽 CD と同じ曲順を設定できます（多くの音楽 CD では、Windows Media Player で音楽を取り込むと、自動的にファイル名の先頭に番号が記録されます）。

希望の曲順で音楽を再生したいときは、音楽 CD ごとにフォルダを作成し、フォルダ名の先頭に数字（01**、02**、03**、…など）をつけると、音楽の再生順を自由に設定できます。

好きな曲だけを再生したい

プレイリストを利用すると、お気に入りの曲だけを再生できます。プレイリストを再生するときの曲順は、プレイリストへ登録した順番になりますので、複数の音楽 CD を本体に取り込み、好みの曲順でプレイリストに登録すれば、「マイベスト」の再生を楽しめます。プレイリストについては「好みの曲をプレイリストに登録（消去）しよう（フォルダ機能 3）」（P.45）および「プレイリストを再生しよう」（P.50）をご覧ください。

ポケットや鞄などに入れている時の誤動作を防ぎたい

ホールド機能を使うと、気付かないうちにスティックコントローラーⓂやボタンが誤って押されるといった誤動作を防げます（P.30）。

●録音編

曲ごとに分割して録音したい

本体で録音すると停止したところまでがひとつのオーディオファイルとして保存されます。曲ごとにファイルを分割したいときは、録音 / 停止の作業を繰り返してください。

CD や MD プレーヤーなどを本体の LINE-IN（ラインイン）ジャックに接続してダイレクトレコーディングする場合には、オートシンク機能（P.115）を使うと、CD などの曲間（無音部分）を検知して自動的に曲ごとにオーディオファイルを分割でき便利です。オートシンク機能の詳細については「曲ごとにファイルを分割して録音しよう（オートシンク）」（P.115）をご覧ください。

外部マイクを使って録音したい

基本的には、外部マイクを接続することはできません。ただし、外部マイクを一度オーディオ機器などに接続していただき、そのオーディオ機器の出力を付属のダイレクトレコーディングケーブルを使って本体 LINE-IN（ライン）ジャックに接続してダイレクトレコーディングを行うことは可能です。

テレビの音を録音したい

イヤホンを接続できるテレビであれば、テレビのイヤホンジャックと本体 LINE-IN（ラインイン）ジャックを付属ダイレクトレコーディングケーブルで接続することで、ダイレクトレコーディングが可能です。ダイレクトレコーディングケーブルを接続する場所を間違えないようにご注意ください。

できるだけ長時間録音したい / 録音ファイルのサイズを小さくしたい

メモリ残量が同じ場合、録音音質が「低」、「標準」、「高」の順番に長く録音できます。また、同じ時間録音する場合は、同様の順番で録音したオーディオファイルのサイズを小さくすることができます。録音する目的に応じて、最適な録音音質を選んでください。録音音質の設定のしかたの詳細は「録音時の音質を設定しよう」（P.112）をご覧ください。

●その他の機能

大切な録音内容を保存したい

本体をパソコンと USB 接続し（P.81）、エクスプローラなどで本体を開くと、本体内蔵メモリに保存されているオーディオファイル一覧を見ることができます。この中から保存しておきたいファイルを選び、パソコンにバックアップ（複製保存）することができます。バックアップしたオーディオファイルは、Windows Media Player で再生できます。

確実にファイルを保存したい場合は、バックアップ後に、さらに CD-R などに書き込むことをお薦めします。エクスプローラを使って本体とパソコンでファイルをやり取りするしかたは、「ファイルをパソコンにバックアップしよう」（P.91）および「本体をモバイルメモリとして利用しよう」（P.94）をご覧ください。

メモリを増設したい

メモリは内部メモリのみとなっており、外部メモリの増設には対応しておりません。ただし、パソコンに必要なファイルをバックアップ（複製保存）して、その時々で必要な曲（オーディオファイル）のみを本体に保存するようにすれば、内部メモリだけでも充分に活用することが可能です。

自動的に電源をオフにしたい / 電池を節約して上手に使いたい

曲の再生中と FM ラジオの受信中を除いて、一定時間何も操作しなかったときに自動的に電源を切る［自動オフ］機能をメニューで設定できます。設定のしかたは「自動電源オフ時間を設定しよう」（P.108）をご覧ください。

困ったときには（音楽再生～メイン画面）

WMA ファイルが再生できない

Windows Media Player の［同期（バージョン 9 では［デバイスへの転送]）］を使わずに、Windows のエクスプローラなどでファイルを本体にコピーすると、以下の場合はオーディオファイルを再生できません。

1：ダウンロード購入したDRM情報（P.98）が有効なオーディオファイルの場合

2：音楽 CD からパソコンに録音したときに著作権保護機能が働いたとき

2 の場合は、Windows Media Player の［ツール］－［オプション］の［音楽の取り込み（バージョン 9 では [音楽の録音]）］タブで［取り込んだ音楽を保護する（バージョン 9 では [保護された音楽を録音する]）］チェックボックスをオフにして音楽 CD から録音することで、再生が可能となります。

しかし、いずれの場合もファイルの転送は Windows Media Player をお使いください。

また、ビットレートが 32 ～ 192kbps の範囲を超えた WMA ファイルは再生できません。

MP3 ファイルが再生できない

本製品は、DRM 情報が有効な MP3 ファイル、または、ビットレートが 32 ～ 320kbps の範囲を超えた MP3 ファイルは再生できません。DRM 情報についての詳細は「DRM（デジタル著作権管理機能）」（P.98）をご覧ください。

WAV ファイルが再生できない

本製品では、本製品で録音（ボイスレコーディング / ダイレクトレコーディング /FM レコーディング）した WAV ファイルのみ再生に対応しています。

曲を再生しようとすると電源が切れてしまう

▶/IIを長く押し続けると電源が切れます。曲を再生する場合は、▶/IIを短く押してください（P.29）。

A-B リピート再生の設定をしようとすると録音が開始されてしまう

A-Bを長く押し続けると録音が開始されます。A-B 再生のリピート区間を設定する場合は、A-Bを短く押してください（P.35）。

再生中の曲を頭出し再生しようとすると、ひとつ前の曲が再生されてしまう

再生が始まって 5 秒以内に M を⏮に短く押すと、ひとつ前の曲の頭出し再生が始まります。現在再生中の曲を頭出し再生したい場合は、再生が始まって 6 秒以上経過した後に M を⏮に短く押してください。

困ったときには（録音画面）

録音できない

以下の点をご確認ください

1: 外部オーディオ機器と正しく接続しているか（P.60）

2: メモリ残量が充分あるか

（録音可能時間は、録音画面で確認できます。また、メモリ残量は、「内蔵メモリ空き容量やバージョン情報を確認しよう」（P.129）で確認できます。）

3: バッテリー残量が充分あるか

（電池の残量が少ないと、[ローバッテリー] と表示され、録音が停止します。録音時は、充分に残量のある電池をお使いください。）

録音した音が悪い

音質を［低］に設定すると、長時間の録音が可能になりますが、録音したオーディオファイルのサウンドクオリティーも低くなります。録音する目的に応じて、最適な音質を選んでください。詳細については「録音時の音質を設定しよう」（P.112）をご覧ください。

いつのまにか録音状態になってしまう

Ⓐ-Ⓑを長く押し続けると録音が開始されます。A-B 再生のリピート区間を設定する場合は、Ⓐ-Ⓑを短く押してください（P.35）。

いつのまにか録音が停止してしまう

電池の残量が少ないと、[ローバッテリー] と表示され、録音が停止します。録音時は、充分に残量のある電池をお使いください。

ボイスレコーディングした音が異常に小さい

内蔵マイクを向ける方向によって、録音される音の音量が変わります。本体内蔵マイクは、録音したい音源に向けて録音してください。

録音した音が聴こえない

録音される音は、再生するオーディオ機器の音量により変化します。そのため、再生側の音量をゼロにしてしまうと録音ができません。

大切な録音を行う場合は、事前に試し録音をして、再生時の音量・音質をご確認ください。また、録音中は音量を変化させないでください。

外部オーディオ機器から録音した音が小さい

ダイレクトレコーディングする際は、本体にインナーイヤホンを接続して、録音する音楽を聴きながら、外部オーディオ機器の再生音量を調節してください。その際、少し音量が大きいと感じる程度の音量設定を推奨します。

困ったときには（FM ラジオ画面）

ラジオがきれいに聴こえない

本体に搭載されている FM チューナーはイヤホンアンテナ方式のため、イヤホンを接続していないときれいに受信できません。FM ラジオを聴いたり録音するときは、必ずイヤホンを接続してください。

ラジオに雑音が多く混ざる

電池の残量が少ないとノイズが発生しやすくなります。充分に残量のある電池をお使いください。

放送局（周波数）がうまく受信できない

内蔵 FM チューナーの［FM ラジオ設定］を日本国内仕様の［日本］に設定してください。設定のしかたは「FM ラジオの設定をしよう」（P.122）をご覧ください。

困ったときには（全体的な操作）

Ⓜやボタンの操作がうまくできない / 操作がわからなくなってしまった

スティックコントローラーⓂや各ボタンは、操作する時間によって操作内容が変わる場合があります。本取扱説明書では、スティックコントローラーⓂやボタンを瞬時に短く押したり動かす場合は「**短く押す / 短く動かす**」、2 秒以上押し続けたり数秒間動かしたままにする場合は「**数秒間押したまま（押し続ける）/ 数秒間動かしたまま**」と表記しています。スティックコントローラーⓂやボタンを操作する際には、操作する時間にご注意ください。

また、スティックコントローラーⓂは、押したつもりでも実際は上下左右に動いている場合があります。本取扱説明書で説明している手順通りに操作が進まず、元の状態に戻れなくなったら、一度スティックコントローラーⓂを押したままにしてメイン画面に戻り、再度手順 1 から操作をやり直してください。

スティックコントローラーやボタンが操作ができない

HOLD（ホールド）スイッチがオンになっていないかご確認ください（P.30）。

HOLD（ホールド）スイッチがオフの状態で、なおかつ通常の操作できないなどの不具合が生じた場合は、バッテリーカバーを取り外し、電池を抜いて強制終了（リセット）してください。

リセット後、再び電池を取り付けて電源を入れ、正常に動作するかご確認ください。リセット後も動作に不具合がある場合は弊社サポートセンターにご相談ください（P.151）。なお、リセットを行っても、オーディオファイルなど本体内蔵メモリ に保存したファイルや各種の設定は消去されません。

電源が入らない

以下の点をご確認ください

- 電池の残量が充分か
- HOLD（ホールド）スイッチがオンになっていないか（P.30）

オーディオファイル /FM ラジオの音が鳴らない

以下の点をご確認ください。

- イヤホンが正しく接続されているか（P.19）
- ボリュームが最小になっていないか（P.32）
- 再生状態になっているか（停止状態になっていないか）（P.32）
- 再生しようとしているオーディオファイルがパソコンでも再生できるか

  ※パソコンでも再生できない場合は、ファイルが無音または壊れている可能性があります。

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

メニュー操作中に勝手にメイン画面に戻ってしまう

各種メニュー設定時に［オートバック］の設定が有効になっていると、何も操作せずに一定時間が過ぎると自動的にメイン画面に戻ってしまいます。操作がしづらい場合は、［オートバック］機能をメニューで［無効］に設定してください。設定のしかたは「オートバックの設定をしよう」（P.120）をご覧ください。

フォルダの作り方がわからない / フォルダの削除ができない

本体の操作では、フォルダの作成が行えません。またファイルの削除は行えますが、フォルダは削除できません。フォルダの作成や削除は USB 接続したパソコン上で行ってください。詳細については「フォルダの作り方」（P.96）および「ファイル / フォルダの削除のしかた」（P.92）をご覧ください。

パソコンと USB 接続すると本体の操作ができない

パソコンと接続中は、本体の操作はできなくなります。パソコンから本体を取り外すときは、必ず「パソコンから本体にファイルを転送しよう 3 〜パソコンからの取り外しかた」（P.89）の手順に従ってください。

画面表示が日本語以外になってしまった

ディスプレイに表示する［言語］を［日本語］に設定してください。設定のしかたは「ディスプレイに表示する言語を設定しよう」（P.130）をご覧ください。

パソコンに USB 接続しても認識されない

一度パソコンから取り外し、再度パソコンと接続し直してください。パソコンとの接続のしかたについては、「パソコンから本体にファイルを転送しよう 2 〜ファイルの転送のしかた」（P.85）をご覧ください。

パソコンから本体にファイルの転送ができない

以下の点をご確認ください。

- ファイル名が長くないか

（長いファイル名を持つファイルは、ファイルサイズ以上にメモリを消費します。一度短いファイル名に変えてから転送してみてください。）

- メモリ残量が充分あるか

（転送可能なメモリ残量は、「内蔵メモリ空き容量やバージョン情報を確認しよう」（P.129）で確認できます。）

Windows Me でデバイスマネージャに緑色の×マークが表示される

この表示は仕様です。動作に問題ありませんので、そのままお使いください。

その他のよくあるお問い合わせ

■再生について

Q：イコライザはありますか？
A：ノーマル（NOR)、ロック（ROCK)、ジャズ（JAZZ)、クラシック（CLAS)、ポップ（POP）から選択する事が可能です。

Q：レジューム機能はありますか？
A：あります。電源を切っても、直前に停止した部分から再び曲の再生が行えます。

Q：曲が再生されません。(WMA ファイルの場合)
A：著作権の保護が有効な WMA ファイルの可能性があります。Windows Media Player を利用してファイルを保存してください。

■録音について

Q：録音形式はなんですか？
A：Windows 標準形式である WAVE 形式および MP3 形式で録音可能です。

Q：録音方法はどのような形になりますか？
A：内蔵マイク（ボイスレコーディング)、および LINE-IN 端子を使ったダイレクトレコーディングケーブルでの入力（ダイレクトレコーディング)、FM ラジオ（FM 録音）の 3 種類の録音が可能です。

Q：テレビなどの音も録音可能ですか？
A：イヤホンを接続できるテレビであれば、基本的には可能です。ダイレクトレコーディングケーブルを接続する場所を間違えないように注意してください。

Q：録音品質は設定できますか？
A：[高]、[標準]、[低] の 3 タイプから選択可能です。

Q：録音可能時間を教えてください。
A：録音品質により異なります。録音時間はビットレートによって計算可能です。

※計算式
録音可能時間（分）＝容量（空き容量）× 128 ÷ 録音ビットレート
128kbps が 1 分間に約 1MB 使用します。
※例
空容量 128MB：WAVE 形式：8kHz の場合
128（MB）× 128 ÷（8（kHz）× 4）＝ 512 分（約 8 時間）
空容量 128MB：MP3 形式：128kbps の場合
128（MB）× 128 ÷ 128（kbps）＝ 128 分（約 2 時間）

Q：録音レベルは調整できますか？
A：できません。ダイレクトレコーディング時には、元のオーディオ機器の音量に依存します。事前に試し録音をされることをお勧めします。

Q：タイマー録音機能はありますか？
A：ありません。

■ラジオの受信について

Q：受信可能な局は FM 局のみですか？
A：TV の 1 ～ 3CH についても音声の受信が可能です。AM の受信はできません。

■接続について

Q：専用ソフトは必要ですか？
A：Windows Me 以降の Windows OS であれば、パソコンと接続するだけで使用可能です。特に専用ソフトは必要ありません。

Q：パソコンに接続しても認識しません。
A：パソコンと接続している際に、X-mate 本体の液晶に［Ready］と表示されるか確認してください。表示されない場合は、本体の異常がある可能性があるので弊社に送っていただき動作を確認いたします。
A：複数の USB ポートがある場合は、別のポートを使ってみてください。
A：USB ハブを使用している場合は、直接パソコンの USB ポートに挿し直してください。
A：Windows 98SE の場合は、先に付属 CD-ROM のソフトウェアをインストールする必要があります。
A：認識までに時間がかかる場合があります。しばらく待ってみてください。

■ディスプレイ表示関連

Q：日本語表示ですか？
A：曲名、タグ情報については日本語を表示する事が可能です。

Q：ID3 タグ /WMA タグは表示されますか？
A：MP3 ID3 V1,V2 タグ、WMA タグのタイトル情報の表示に対応します。

■ USB 延長ケーブルについて

Q：付属の USB 延長ケーブル以外のケーブルを使用することができますか？
A：原則的には利用可能と思われますが、付属ケーブル以外を使用しての動作は保証できません。

■メモリ関連

Q：メモリーは増設できますか？
A：メモリーは内蔵メモリのみとなっております。外部メモリの増設には対応しておりません。

Q：音楽ファイル以外の保存はできますか？
A：接続したパソコンからは一般的な USB 接続の HDD や USB メモリと同様に、USB マスストレージドライブ（大容量記録デバイス）として認識されますので、どのようなファイルでも容量が許す限り保存する事ができます。なお、重要なデータはバックアップを取る事をお勧めします。

■電池について

Q：使用する電池のタイプはなんですか？
A：単 4 型アルカリ乾電池となります。

Q：電池は付属されていますか？
A：動作確認用の電池を 1 本付属しています。継続してご利用するには単 4 型アルカリ乾電池をご購入ください。

Q：連続再生時間はどのぐらいですか？
A：アルカリ乾電池で最大で約 12 時間となりますが、ご利用の状況によって異なります。

■その他の機能について（本体関連）

Q：自動電源オフはありますか？
A：1、2、5、10 分、無効（連続）で設定できます。なお、自動電源オフは、FM ラジオを含む再生が停止している際の無操作状態が継続した場合のみ働く機能となります。

Q：FM トランスミッター機能はついていますか？
A：ついていません。

■その他の使用方法について（パソコン関連）

Q：Windows Media Player で X-mate が表示されません。
A：Windows Media Player を起動する前に本体をパソコンに接続してください。Windows Media Player 上では、[リムーバブルディスク] と表示されます。

Q：日本語版以外の Windows で使用できますか？
A：日本語版の Windows のみサポートです。
基本的には使用できると思われますが、保証はいたしかねます。

Q：音楽ファイル以外も保存できますか？
A：接続したパソコンからは一般的な USB 接続の HDD や USB メモリと同様に、USB マスストレージドライブ（大容量記録デバイス）として認識されますので、どのようなファイルでも容量が許す限り保存する事ができます。なお、重要なデータはバックアップを取る事をお勧めします。

Q：パソコンから取り外す方法を教えてください。
A：Windows98SE は、ファイル転送後にファイルが転送されていない事を確認してから取り外してください。それ以外の場合は、［ハードウェアの安全な取り外し］を利用して抜いてください。

Q：容量を増やす事はできませんか？
A：できません。録音曲数を増やしたい場合は録音音質を [低] にして録音してください。収録する曲数が増えます。ただし、その場合は音質が低くなります。

Q：本体で録音した音楽などをパソコンで再生できますか？
A：MP3 または WAV 形式で録音されていますので、そのまま保存して再生する事が可能です。

■エンコードについて（パソコン関連）

Q：エンコードソフトは何を使用すればよいですか？（WMA）
A：Windows Media Player 9 以降のバージョンを使用してください。

Q：エンコードソフトは何を使用すればよいですか？（MP3）
A：ひととおりのテストを行っていますので、どのようなソフトウェアをご利用頂いても、基本的には問題はないと思われます。しかし、MP3 の規格から著しく外れたファイルを作成するようなエンコーダーを使用した場合、再生できない可能性があります。

Q：MP3、WMA 以外のファイルは再生できますか？
A：X-mate で再生できる音楽ファイルは MP3、WMA、WAV（本体で録音したもの）のみとなります。ATRAC3 形式などは再生する事ができません。（SonicStage をご利用のお客様など）

付録

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

主な仕様

<table>
<tr><td>仕様</td><td colspan="5">MP3/WMA再生対応　USBデジタルオーディオプレーヤー</td></tr>
<tr><td>本体寸法・重量</td><td colspan="5">56(W)×24(H)×23(D)・38g(電池重量除く)</td></tr>
<tr><td>ボディカラー</td><td>シルバー</td><td>レッド</td><td>ブルー</td><td>オレンジ</td><td>ブラック</td></tr>
<tr><td>内蔵メモリ</td><td>256MB</td><td colspan="2">512MB</td><td colspan="2">1GB</td></tr>
<tr><td>出力デバイス</td><td colspan="5">3.5mmステレオミニジャック ※1</td></tr>
<tr><td>入力デバイス</td><td colspan="5">2.5mmステレオミニミニジャック　内蔵マイク</td></tr>
<tr><td>PC接続インターフェイス</td><td colspan="5">USBポート(Type A ※2)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">S/N比</td><td>FMチューナー</td><td colspan="4">50dB</td></tr>
<tr><td>オーディオ</td><td colspan="4">90dB</td></tr>
<tr><td>アンテナ</td><td colspan="5">ヘッドホン/イヤホンアンテナ</td></tr>
<tr><td>受信周波数(FMチューナー)</td><td colspan="5">76.0MHz～108MHz</td></tr>
<tr><td>再生周波数</td><td colspan="5">20Hz～20kHz</td></tr>
<tr><td>再生可能ファイル形式</td><td colspan="5">WAV形式、MP3形式、WMA形式 ※3</td></tr>
<tr><td>録音可能ファイル形式</td><td colspan="5">WAV形式、MP3形式</td></tr>
<tr><td rowspan="2">最大録音時間 ※4</td><td colspan="2">ダイレクトレコーディング/FM</td><td colspan="3">8時間(256MB)/16時間(512MB)/32時間(1GB)</td></tr>
<tr><td colspan="2">内蔵マイク</td><td colspan="3">16時間(256MB)/32時間(512MB)/64時間(1GB)</td></tr>
<tr><td>連続使用時間</td><td colspan="5">約12時間 ※5</td></tr>
<tr><td>電源</td><td colspan="5">単4型アルカリ乾電池</td></tr>
<tr><td>収録プログラム</td><td colspan="5">専用ファームウェアアップデートプログラム
Windows98SE用ドライバーソフトウェア</td></tr>
<tr><td>対応OS</td><td colspan="5">Microsoft Windows98SE / Me / 2000 / XP ※6</td></tr>
<tr><td>必要機器</td><td colspan="5">CD-ROMドライブ、USBポート ※7</td></tr>
<tr><td>パソコンの必要スペック</td><td colspan="5">Pentium2以上の機能を持つCPU</td></tr>
<tr><td>必要搭載メモリ</td><td colspan="5">128MB以上</td></tr>
<tr><td>ハードディスクの空き容量</td><td colspan="5">100MB以上の空き容量(オーディオデータを含まず)※8</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5">インターネットに接続できる環境
Internet Explorer 4.01SP2以降
Windows Media Player9以降</td></tr>
</table>

※1:3.5mm ステレオミニジャックは、付属の USB イヤホンケーブルに搭載されています。

※2:USB Type A 端子は、付属の USB イヤホンケーブルに搭載されています。

※3:MP3（32kbps ～ 320kbps）、WMA（32kbps ～ 192kbps）、可変ビットレート（VBR）でエンコードされた物もこの範囲を逸脱した場合には再生が正常ではなくなる場合があります。WMA は DRM 対応ですが、購入された楽曲については全ての楽曲の転送を保証する物ではありません。WAV 再生は、本製品で録音（ボイスレコーディング / ダイレクトレコーディング /FM レコーディング）した WAV ファイルのみの対応となります。

※4:最大録音時間はメモリが空の状態で録音を行った場合となります。

※5:ボリューム設定最大値、MP3（128kbps）ファイルを連続再生した場合で新品のアルカリ乾電池を利用した場合。電池の消耗状況、および利用環境により使用時間は変動します。

※6:いずれの OS も日本語版で、アップグレードインストールでない環境。また、Windows2000 環境の場合にはサービスパック（SP2 以降）がインストールされている事。上書きインストールした環境、OS が正常に動作していない環境は除きます。

※7:USB2.0、USB1.1 ポートに対応しておりますが、いずれの場合も転送速度は USB1.1 となります。

※8:別途オーディオデータを取り込む際などはそのための容量が必要です。

注意

- 本体の仕様及び、ソフトの仕様、付属のソフトウェアはより良いものを提供するため予告なく変更になる場合があります。

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

ハードウェア保証規定

本取扱説明書の注意書きおよび付属の説明書に従った使用状況で、本製品が保証期間内に故障した場合、下記の保証規定の範囲内で無料修理をさせていただきます。

以下は、本製品に関する保証規定を記載しております。ご使用前に、必ずお読みください。

1 保証対象

本保証書は本保証書記載の保証期間中(お買い上げ日当日より起算して1年間)、本商品の本体のみを保証対象とするものです。添付品類（イヤホンを含む）は消耗品となり、保証書記載のお買い上げ日当日より 14 日間の初期不良期間に限り、同様の保証を行わせて頂きます。

2 保証の内容

1. 製品が取扱説明書記載の通常の使用方法により保証期間中に正常に動作しなくなった場合は、弊社にて検証を行った後、無料での修理または同等商品との交換を致します。修理のため交換された旧製品、旧部品等の返却は致しかねますので、ご了承ください。なお、データの消失等については、一切保証致しかねますので、あらかじめご了承ください。
2. 以下のような場合には、無料での修理、または交換は致しかねます。
   1) 弊社製品と判断出来ない場合
   2) 本保証書の呈示がない場合
   3) 本保証書の所定事項（ お名前、ご住所、販売店欄等 ）の未記入、または字句を書き換えられた場合
   4) 本製品の自然消耗に起因する故障または損傷（本製品は製品の性質上、製品寿命がございます。）
   5) 火災、地震、水害、落雷、ガス害、塩害、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障または損傷
   6) お買い上げ後の輸送、移動時の落下などお取り扱いが不適当なため生じた故障または損傷（歩行中に製品を落とすなどして破損したものについても保証対象外になります。）
   7) ご使用時の不備あるいは接続している他の機器によって生じた故障または損傷
   8) 取扱説明書の記載内容に反するお取り扱いによって生じた故障または損傷
   9) 弊社以外で改造、調整、部品交換などをされた場合
   10) 消耗品の交換
   11) 本製品の外装、および内部部品が破損している場合
   12) その他、修理もしくは交換が認めがたい行為が発見された場合

3 保証対象外の有料修理または交換

1. 保証期間経過後、または上記 2 項（2）の各項目のいずれかに該当する修理もしくは交換の申し出に対しては、弊社の判断で有料での修理、または同等商品との交換を致します。修理のため交換された旧製品、旧部品等の返却は致しかねますので、ご了承ください。なお、データの消失等については、一切保証いたしかねますので、ご了承ください。

2. 次のような場合には、有料での修理、または交換は致しかねます。
この場合は修理、交換をお受けせず、送付された製品を返却させて頂く場合がございます。
   1) 弊社製品と判断出来ない場合
   2) 損傷が著しい場合
   3) 弊社以外で著しい改造、調整、部品交換などをされた場合
   4) その他交換が認めがたい行為が発見された場合

4 免責

本製品を使用した結果生じた、他のハードウェア等への影響については一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承下さい。

本保証書は上記の保証をなすものです。

本保証規定は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.

保証品送付のご案内

保証書記載の本製品が正常動作しなくなった場合は、現象、環境等の詳細を取扱説明書記載の「お問い合わせ票（トラブルシート)」(P.156）の書式に従い記載いただいたうえ、保証書等とともに本製品を以下の住所までお送りください。

送付される際は、輸送時の破損を防ぐため厳重に梱包し、紛失等のトラブルを避けるため、宅配便にてお送りください。

なお、弊社に直接お持込になられてもご対応出来かねますので必ず修理品はお送りくださいます様お願い致します。

送料については、発送時の費用はお客様負担、返送時の費用は無料修理および交換の場合は弊社負担、有料での修理、または交換の場合はお客様負担とさせていただきます。製品到着後、修理もしくは交換が完了しだい、返送させて頂きます。

以上は本保証規定に基づく無料修理の場合であり、その他の場合には下記シーグランドサポートセンターまでご連絡ください。

送付していただくもの

- 本製品
- 保証書
- 現象、環境等の詳細を記載したお問い合わせ表（トラブルシート）（P.156）

注意

- 修理の際、本体内蔵メモリに保存されていたファイルについては保証いたしかねますのであらかじめご了承ください。

送付先住所

〒 135-0016
東京都江東区東陽 1-25-4　2F
シーグランドサポートセンター
TEL 03-5617-3653

※ご不明な点などは、サポートセンターまでお問い合わせください。

本保証は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.

サポートセンターのご案内

本製品の操作上の疑問や不明点もしくは動作の不具合などは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

弊社サポートセンターにお問い合わせいただく前に、まず本取扱説明書をよく読み、特に「使用上のヒントと トラブルシューティング」(P.133)をご参照ください。

インターネットをご利用できる方は、弊社ホームページで製品発売後に発見された不具合やその対策などの最新情報を公開しております。弊社サポートセンターにお問い合わせいただく前に、一度弊社ホームページをご覧ください。

シーグランドサポートセンター

電話：ナビダイヤル 0570-050150 /（携帯・PHS）03-5617-3653
FAX：03-5617-3712
E-MAIL：support@seagrand.co.jp
ホームページ：http://www.seagrand.co.jp/support/index.shtml
電話対応時間：月曜日～金曜日（祝祭日を除く）
10:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00 まで

- E-MAIL や FAX でのお問い合わせの際には、ご連絡先や質問事項、ご利用機器の構成（OS やパソコンの機種名、メモリ、空き容量など）を「お問い合わせ票（トラブルシート）」(P.156) を参考にして、できるだけ詳しくご記載ください。
- トラブルの状況によっては、調査のためお時間を頂戴することがあります。あらかじめご了承ください。
- Windows の使い方やパソコン固有の問題に関しては、各製品のサポートセンターへお問い合わせください。
- 弊社で動作保証している機器以外の組み合わせでご利用になられた場合の不具合に関しては、弊社ではサポートいたしかねます。
- お問い合わせいただいた順に回答させていただきますが、内容により前後する場合がございます。

ユーザー登録のご案内

シーグランドは、ユーザー登録されたお客様に対して、サポートやアップデートのご案内など、各種サービスを実施させていただきます。同梱されている「ユーザー登録はがき」に必要事項を記入の上、ご登録手続きをしてください。

なお、弊社ホームページからもユーザー登録ができます。

http://www.seagrand.co.jp/regist/index.shtml

シーグランドのプライバシーに関するポリシー

プライバシーは個人の重要な権利であり、シーグランド株式会社はお客様の個人情報の保護に努めています。シーグランド株式会社のプライバシー・ポリシーは以下に記載のとおりです。

●個人情報の収集について

シーグランド株式会社（以下、弊社）は、製品に付属しているユーザー登録はがきや弊社ホームページからのユーザー登録によって、お客様の個人情報の提供を求めることがあります。また、サポートセンターへのお問い合わせの際にお名前や電話番号、E-mail アドレスなどをお尋ねする場合があります。弊社はまた、お客様が弊社製品の販売会社に提供された個人情報を、お客様の事前の同意のもとにその会社から収集することがあります。

お客様が個人情報を弊社に提供されるかどうかは、完全にお客様個人の自由です。お客様ご自身の意思により、個人情報が弊社に提供された場合、それらの情報は弊社の保護されたデータベースに収集し、保管されます。

個人情報保護に関するポリシーは P.154 をご覧ください。

●その他の重要な事項

弊社は未成年者に対し、故意に個人情報の提供を求めること、収集することはありません。

公的機関から要請があった場合や公共の利益になると弊社が判断した場合、弊社はそれらの機関に対し、お客様の個人情報を開示することがあります。

弊社のホームページがリンクする弊社以外の第三者のホームページにおけるプライバシー・ポリシーに関して、弊社は一切の責任を負いません。お客様自身でそれらのホームページのプライバシー・ポリシーを確認されることをお勧めします。

●お問い合わせ

弊社のプライバシー・ポリシーについて、ご質問やご意見などございましたら、シーグランド・サポートセンター（P.151）までお問い合わせください。

シーグランドの個人情報保護に関するポリシー

●情報保護方針

シーグランド株式会社（以下、弊社）では以下の通り「情報保護方針」を定め、個人情報の適切な保護に努めます。

- 個人情報保護の重要性について、従業員に対する教育活動を実施するほか、個人情報保護の管理責任者を置き、適切な個人情報保護の実施、維持、継続的改善に努めます。
- 情報への不正アクセス、紛失、破壊、改ざんおよび漏洩などを未然に防ぐよう努めます。
- 個人情報の収集、利用、提供を行う場合には、業務実態に応じた個人情報の適切な管理に努めます。
- 情報に関する法令、およびその他規範の遵守に努めます。

●個人情報の利用目的について

ご登録いただいた個人情報は、下記の目的で利用させていただく場合があります。

- サポートサービスをご利用いただく場合のご本人様の確認
- 製品をご利用いただくにあたって、弊社が必要と判断した場合のメールなどでのご連絡
- 社内統計資料作成（新製品開発での製品別利用者の年齢構成、性別構成等）
- アップグレード販売、優待販売等へのご案内

●第三者への提供について

上記目的で個人情報を利用するために必要な範囲内で、ご提供いただいたお客様の個人情報を第三者に提供する場合があります。例えば、アップグレード販売、優待販売等での円滑な発送作業を行うためにビジネスパートナーである発送・運送業者等に情報を提供する場合などです。

上記の場合以外では、事前にお客様のご同意をいただかない限り、弊社はお客様の個人情報を第三者には提供いたしません。お客様が弊社製品の販売会社に個人情報を提供された場合、その販売会社からお客様に、ダイレクト・メールや E-mail が届く場合があります。そのような情報提供を希望されない場合は、お客様が直接その販売会社に情報提供の停止を表明する必要があります。弊社は、業務委託先に対しても個人情報を保護するよう義務付けています。

但し、人の生命、身体又は財産を保護するために緊急を要する場合、司法機関、警察等の公共機関による法令に基づく要請に協力する必要がある場合、その他法令に基づく場合には、お客様の事前のご同意を得ずに第三者に提供することがあります。

●個人情報保護方針が適用される範囲

弊社は弊社が保有する個人情報において、個人情報保護方針を遵守し、個人情報を適切に保護します。

弊社は、弊社のホームページにリンクされている他 (事業者または個人) のホームページにおける個人情報等の保護について責任を負うものではありません。

●個人情報の運用について

情報の開示、変更および利用停止について

弊社サポートセンターへご連絡をお願いします。

お名前、製品シリアルナンバー、ご登録のお電話番号を確認させていただき、ご登録の内容と一致した場合のみ、弊社よりご登録のお電話番号へ折り返しご連絡し、合理的な範囲で対応をおこないます。

確認の内容が一致しない場合は情報の開示、変更などの依頼をお断りする場合があります。

なお、弊社より開示する内容は、ユーザー登録でご登録いただいた内容のみですのであらかじめご了承ください。

個人情報についてのお問い合せ

個人情報に関するご質問は、シーグランド・サポートセンター（P.151）までお問い合わせください。

お問い合わせ票（トラブルシート）

以下の用紙に必要事項をご記入のうえ、下記までFAXにてご送信してください。

シーグランドサポートセンター
FAX：**03-5617-3712**

受付番号	

受付番号は弊社使用欄です

お名前（よみがな）：
製品名：
ご購入店：　　　　　　　　ご購入日：　　年　　月　　日
FAX番号： ※本シートをご利用になりFAXにてお問い合わせいただく際には、必ず返信先FAX番号をご記載ください。
■お問い合わせの内容 お問い合わせの際は、より詳しい情報をご提供くださいますようお願いいたします。 処理の手順やエラーメッセージなどをより具体的にご記入ください。 また、パソコンとの接続に関するトラブルの場合、以下の項目も併せてご連絡ください。 ●パソコン名（メーカー）●OS(Windows Me/2000/XP)●ハードディスク容量●メモリ容量 ●その他、パソコンご利用環境

※コピーしてお使いください

索引

英数字

あ

い

お

か

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引

と

な

の

は

ひ

ふ

ほ

ま

み

め

も

ら

り

る

れ

ろ

記号

準備
再生／録音
FMラジオ
パソコン活用
応用編
困った時は
付録／索引